

軍隊教育

計畫
實施

對照進度表



上海图书馆藏书



A541 212 0015 7825B

軍隊教育
計畫
實施
對照
進度
表



~~1606380~~

科目區分	第一星期		第二星期		第三星期		第四星期		第五星期		第六星期		第七星期		合計	
	實施	豫定	實施	豫定	實施	豫定	實施	豫定	實施	豫定	實施	豫定	實施	豫定	實施	豫定
勸諭勅語	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
各種兵之識別及性能	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
軍隊編制概要	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
上官之官姓名	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
武官階級及服制	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
勳章之種類及起因	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
軍隊內務書摘要	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
射擊教範摘要	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
衛兵勤務	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
紅十字條約大意	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
救急法概要	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
標馬史大要	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
築城教範摘要	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
陸軍刑法及懲罰令	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
武器器具被服裝具之名稱整理	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
野外要務令摘要	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
衛戍服務細則	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
陸軍禮節	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
精神講話	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
衛生講話	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
戰時裝着法	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
出師準備之心得	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
步兵操法摘要	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
立國大要	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
合計	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇

一 當期開之學科教育概以新兵學科教育進度表為準
 二 學科教育務與術科連繫而行

第二期術科教育預定時間配當表

科目區分	第一星期		第二星期		第三星期		第四星期		第五星期		第六星期		第七星期		合計時間	實施
	預定	實施	預定	實施	預定	實施	預定	實施	預定	實施	預定	實施	預定	實施		
	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分		
散兵教	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	35	實施
持槍教	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	35	實施
徒手教	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	35	實施
體操	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	35	實施
器械	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	35	實施
射擊	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	35	實施
射擊演習	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	35	實施
狹窄射擊	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	35	實施
各個戰門射擊	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	35	實施
距離測量	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	35	實施
一班教練	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	35	實施
一連教練	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	35	實施
野外散兵教練	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	35	實施
野外小排教練	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	35	實施
野外大排教練	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	35	實施
野外連教練	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	35	實施
步哨勤務	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	35	實施
斥候勤務	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	35	實施
傳令勤務	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	35	實施
小排野外勤務	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	35	實施
大排野外勤務	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	35	實施
一連野外勤務	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	35	實施
行軍	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	35	實施
夜間演習	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	35	實施
一班夜間演習	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	35	實施
一連夜間演習	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	35	實施
呼集演習	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	35	實施
武裝檢查	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	35	實施
整列檢查	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	35	實施
合計	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	245	實施

一、去年第二期使用之日數共四十二日
 二、星期六之諸檢查在表之外故本表預定課目有不能按時實施者則停止星期六之檢查而行補缺教育
 三、持槍體操及各個戰門射擊演習在表內雖無規定然為射擊教育之補助課目故揭於本表

第	一	星	期	備	效
始	習	復	習	始	習
一隊教練	野外一隊教練	一隊野外勤務	工	一隊夜間演習	器械體操
2.00	1.00	1.00	1.00	1.00	3.00
23.00					

進	度	教	育	要	旨	摘	要
行進及停止間之操縱	行進及停止間之操縱	行進及停止間之操縱	行進及停止間之操縱	行進及停止間之操縱	行進及停止間之操縱	行進及停止間之操縱	行進及停止間之操縱
行進及停止間之操縱	行進及停止間之操縱	行進及停止間之操縱	行進及停止間之操縱	行進及停止間之操縱	行進及停止間之操縱	行進及停止間之操縱	行進及停止間之操縱
行進及停止間之操縱	行進及停止間之操縱	行進及停止間之操縱	行進及停止間之操縱	行進及停止間之操縱	行進及停止間之操縱	行進及停止間之操縱	行進及停止間之操縱

第	一	星	期	備	效
始	習	復	習	始	習
一隊教練	野外一隊教練	一隊野外勤務	工	一隊夜間演習	器械體操
2.00	1.00	1.00	1.00	1.00	3.00
20.80					

實施	進	度	實	施	要	旨
隊之編成及操縱之操法	隊之編成及操縱之操法	隊之編成及操縱之操法	隊之編成及操縱之操法	隊之編成及操縱之操法	隊之編成及操縱之操法	隊之編成及操縱之操法
隊之編成及操縱之操法	隊之編成及操縱之操法	隊之編成及操縱之操法	隊之編成及操縱之操法	隊之編成及操縱之操法	隊之編成及操縱之操法	隊之編成及操縱之操法
隊之編成及操縱之操法	隊之編成及操縱之操法	隊之編成及操縱之操法	隊之編成及操縱之操法	隊之編成及操縱之操法	隊之編成及操縱之操法	隊之編成及操縱之操法

教

一隊教練 配當時開闢屬適當
散開及散兵之運動須與密集隊之運動連擊豫定為宜而教育散開集合諸運動之初周欲求
密集隊運動之嚴正與秩序之確實故須以若干時間交互實施為要

野外一連教練 配當時開闢屬適當
此教練須與行軍連擊而行然亦宜視行軍路之喜或為隘路或為河川或為高地或為村落等並按其週
過地之景況而定施從而其預定亦須適應於此故細部預定不得不讓之日計畫不然則進步及教
育要旨之實施不免有所困難

一連野外勤務

此演習之野外一隊教練在實施上稍覺困難蓋以野外一隊教練可與行軍併行而此演習則皆趨四
異時間頗費稍為時間所限即不得展其實施故須預定於行軍日外為要

行軍 急行軍約十五里

用軍裝於山地及平地行之若以其行程之半為夜行軍(強雨暗夜)則能使身體強健而得良好
之結果

在此行軍途中之地行戰鬥教練則能差徵兵卒之行軍身故宜屢於山地行此教練以養
成其體力

工作

用馱載器具構築能容步兵隊之野堡然馱載器具其中使用圓點之投土法未熟水平上之投力未能達三
米之遠故使用馱載器具之工作業初年兵宜於第二期間至少有五時間(三三次)之演習

狹窄射擊

因有一營初年兵之特別射擊故須變更進度以其預行之目的而定施其結果如左表

區分	別	第一班	第二班	第三班	第四班	第五班	第六班
一人平均得點		二六一	二九〇	三三〇	二二六	二四八	二四〇
一人一發平均得點		五二	三八	六四	四三	五〇	四八

教練射擊 舊兵第一習會之成績如左表

教練射擊第一習會成績表

區分	別	第一班	第二班	第三班	第四班	第五班	第六班
一人平均得點		二八〇	三一〇	二九三	三二四	三二〇	三〇一
一人一發平均得點		五〇	五六	五六	五八	五五	五〇

記附

見

所

之

上

育

教 育 上 之 所 見 附 記

一連教練

一、教育進度科目不可特設諸種之規定如屬應用科目而規以各種預定則非操典之精神矣此等應用科目要不出十操典之制式故唯依制式訓練為足而于普通用之隊形與其變換方法之一部之實施僅預定一點三十分

二、所以踰實施時間者以行復習故也

野外連教練

一、村落之攻擊防禦若依教育要旨實施頗屬困難蓋用民家于定際上大為難事

二、隘路前後或隘路內之演習非屬必要列故僅于第二星期行軍之際演行一次

三、高地谷地之戰術無須區別教育

要之此教練之進度大別為高地、森林、隘路、河川之戰術等而教育之已足然在去重幹部教育之時此種教育亦屬必要

一連野外勤務

一、令知樂隊之方法在一隊中其教育稍難

二、露宿演習須繼行軍之夜行之為宜不然則僅為學科之補助無真效可見也

行軍行程約十一里

一、先營出發及大休息後之若干時間其行進速度大概較遲大休息前突然逢雨之後若干時間其速度延伸

二、天候良好故無一名之落伍者地盤乾燥致生靴傷者有十三之多患病者僅三名

三、行軍後接行戰術教練雖有若干之活動之態然至演習數分時間之後即覺其志氣恢復與平常之演習者顯差異

工作

一、堡壘之構築係繼前星期而實施其殘部戰器具之用法須使知其要領

二、夜間敵前之工作皆須嚴守靜肅確鑿構築此教育度數至少故當以高姿勢而迅速着手作業

大概時間之有無及與敵之遠隔接觸等景況多不能了解工作之區別故須以合于此等景況之各種工作至少一次在此教育期內實施之

一連夜間演習

一、糧食分配利用此晚飯而實施約費一時間餘

二、運搬飲食于外衛兵則其食際至致喧嘩而安其對敵思想

三、夜間射擊取警部離高之膝姿為適當此演習次數至少須由幹部之綿密注意方能得其要領

勿論夜間演習與野外演習均宜使用空包然若彈數有限則不能應每回之用實員部隊尚可不用至假設敵則空包之用在所必需于敵兵發見、射擊之緩急、射擊目標之撰定及更換等尤然

教練射擊（初年兵第五習會）舊兵第一習會及補射成績如左表

教練射擊成績表

區分	別	第一班	第二班	第三班	第四班	第五班	第六班
一人平均得點		三二	三三二	二八〇	三〇〇	三一四	三三三
一人一發平均得點		六〇	六三	五五	五八	六〇	六二

狹窄射擊成績表

區分	別	第一班	第二班	第三班	第四班	第五班	第六班
一人平均得點		一七三	二二二	二〇〇	一八四	二一〇	一七八
一人一發平均得點		三〇	四〇	三三	三二	三六	三一

野外散兵教練 散兵之射擊指揮為散兵射擊指示射擊目標之演習為幹部之必要教育而于兵卒教育無直接之關係故演習散兵發見、射擊之緩急、目標之撰定及更換等演習

期 星 五 第														星期	
習 復														科	
偵探	步哨	野外	野外	射擊	器械	徒手	徒手	徒手	徒手	徒手	徒手	徒手	徒手	徒手	星期
1.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	星期
2.20	2.20	2.20	1.30	2.0	1.00	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	星期
<p>野外一連教練 2.00</p> <p>一連野外勤務 1.00</p> <p>行軍 26.00</p> <p>工 1.00</p> <p>一連夜間演習 2.00</p> <p>狹窄射擊 3.00</p> <p>教練射擊 3.00</p> <p>武裝檢查 2.0</p> <p>整列檢查 2.0</p>														星期	
<p>前哨連之戰鬥</p> <p>河川防禦及攻擊</p> <p>檢閱隊之戰鬥</p> <p>前衛戰</p> <p>後衛戰</p> <p>側衛戰</p> <p>遭遇戰</p> <p>一連之營舍及外衛</p> <p>二夜行軍</p> <p>攻擊之工事(小隊)</p> <p>防禦之工事(小隊)</p> <p>警備之工事(小隊)</p> <p>外衛兵 警報及宿營地之戰鬥</p> <p>所用照尺一〇〇〇二十分之二點 伏安 合格</p> <p>最大限十發</p> <p>初年兵(二等射手)改正</p> <p>教範第七習會 二三年</p> <p>兵(二等射手)現行教範</p> <p>第八習會</p>														星期	
<p>野外散兵教練以散兵射擊之目標更換演習 慢射急射之應用</p> <p>演習 射擊効力之觀測演習</p> <p>無指揮之散兵射擊 散兵射擊之中止及再始等為主</p>														星期	
<p>同前星期</p>														星期	
期 星 五 第														星期	
習 復														科	
偵探	步哨	野外	野外	射擊	器械	徒手	徒手	徒手	徒手	徒手	徒手	徒手	徒手	徒手	星期
1.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	星期
4.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	星期
<p>野外一連教練 3.00</p> <p>一連野外勤務 3.00</p> <p>行軍 15.00</p> <p>工 4.50</p> <p>一連夜間演習 5.00</p> <p>狹窄射擊 4.00</p> <p>教練射擊 3.00</p> <p>武裝檢查 4.0</p> <p>整列檢查 2.0</p>														星期	
<p>53.40</p> <p>刪去遭遇戰</p> <p>其他同進度</p> <p>一連之營舍及外衛</p> <p>二夜行軍</p> <p>第一日(約五車)急</p> <p>第二日(約五車)急</p> <p>刪去進度</p> <p>步兵攻擊之工事</p> <p>敵前哨部隊之工事</p> <p>同進度</p> <p>劣等射手之補射(三四)</p> <p>同進度</p> <p>初年兵第六習會</p> <p>二三年兵第三習會</p>														星期	
<p>野外散兵教練</p> <p>刪去射擊効力之觀測演習</p> <p>餘同教要旨</p>														星期	

教 育 上 之 所 見 備 效

野外一連教練

一 若按進度科目而實施則三時開會不足至少須三四時開
 二 進度科目只以前衛戰 側衛戰 後衛戰及前哨中隊之戰鬥等為可若遭遇戰則一連以下之部隊
 難以現狀與之原則若檢護隊之戰鬥則實施于各種地形頗為時間且于士卒之動作無直接關係
 故此二科目可移于第三期以後或讓于日教育計畫為宜
 要之進度科目及教育要旨當以單個科目配合而無使有割于射之處

一連野外勤務

一連之緊急令當實施頗難蓋利用氏宗依種種之事情多生制限若必須實施則可利用廟宇以行
 學科的實施然其地形與狀況于緊急令當之真價則難及矣

一夜行軍

一 預定雖為一夜行軍然以本軍演習費之支絀遂致不得實施
 二 (連)一夜行軍所要之費用概算如左(其人員約百名)
 單純 露營 約五圓
 部隊 自炊 約拾圓
 三 一夜以上之行軍若在機動演習中實施則于各種之戰鬥駐軍等重均能實行故有機會務以此
 此實施為要

工作
 工作概未純熟此教育以養成各種景况之悟會力及作事力為旨然其間之配當不多則難以達此目的
 也

夜間演習

一 一連與一排之對抗至少須用空包二三發不然則情况之顯示不能適切
 二 初年兵之夜間動作概未純熟其演習等動作則接近敵人時所發之聲響等之惡其報告動作亦
 不確實

狹窄射擊之成績如左表

狹窄射擊成績表

區分	班別	第一班	第二班	第三班	第四班	第五班	第六班
一人平均得點		三〇.二	三七.六	三七.〇	三三.六	二六.四	三七.二
一人一發平均得點		六.〇	七.五	七.四	六.七	七.七	七.四

教練射擊之成績如左表

教練射擊成績表

(初年兵第三習會)
(舊年兵第六習會)

區分	班別	第一班	第二班	第三班	第四班	第五班	第六班
一人平均得點		一九.八	二〇.八	一九.七	一八.三	一八.五	一九.四
一人一發平均得點		三.九	四.一	三.九	三.五	三.六	三.八

教 育 上 之 所 見

一連野外教練

- 一、森林通過之演習已於前星期行之故茲刪去
- 二、平坦開闊地之攻擊及防禦可在操場一連教練中實效於野外無須另行

一連野外勤務

- 一、對於假設敵之戰鬥前哨改為一排對抗之戰鬥前哨然書明實施難現出實況對於忠鈍兵卒不能惹起其對敵之觀念不無遺憾是以演習須與情況特別地形等適切為要不然則教育之效果終不免微弱也

行軍 行程約七里

本星期因操場之獨立指揮並天雨之故不能施行預定之行軍然當日之行軍兵卒感其無一各落伍者

小排夜間演習

以內務班編成之小排由班長或班附副目指揮向山地行軍此行軍之目的在慣於識別夜間未熟之地理並使知生地夜行軍之困難及晝夜行軍之異趣而調查其行進速度之比較則以實地演習為要
此行軍各小排不無迷路之虞

狹窄射擊

以事故之日多故不施行

教練射擊 (初年兵第七習會) 成績如左表

教練射擊成績表		第一班	第二班	第三班	第四班	第五班	第六班
區分	平均得點	一五二	一六七	一九三	一九三	一九〇	一七〇
一人一發平均得點		三〇	三三	三九	三九	三八	三四

武裝檢查

此檢查須於行軍及野外演習之前後或中間屢屢實施其於行軍後之檢查尤為有益苟能如此屢屢施行則喚起兵卒關於武裝之注意而漸次養成習慣利莫大焉

整列檢查

此檢查亦須於各種演習之前後若干時屢々施行為利若但於新兵教育之時執行之而第一期以後放棄則不可

各個戰術射擊

- 一 偵探動作尚屬妥當然以其過於顧慮地物故發見敵兵甚遲
 - 二 命中成績中等
- 其當日雖係天雨然其動作尚屬適當

教練射擊 (初年兵第八習會
舊兵第五習會)

其成績如左表

教練射擊成績表

區分	班別	第一班	第二班	第三班	第四班	第五班	第六班
一人平均得點		二二一	一五〇	一二二	一九〇	一四四	一三〇
一人一發平均得點		二二二	二一九	二二三	二一九	二二八	二二四

本星期實施之不足原因種種就中以祭典而天占多故至於此
星期教練中一連教練之實施時間僅十三小時頗覺不足至少須十五小時至十八小時方為適當

武裝檢閱

武裝檢閱之目的在於檢閱時連之整齊與否時向自後應受少從進

實地檢閱

此種檢閱尚好但在實地檢閱時非大形過大

學科

正副官之答辭尚好但有副官一名答辭不明

正兵答辭尚詳但其中有二三名竟不知 皇上之年齡者殊多遺憾副兵答辭亦尚好不充分者只二三名

戰鬥教練

戰鬥教練

隊形及散兵之距離尚好其二排同時散開之動作亦可謂適於時機之處置然如此凹地之散開應即在

其地行之何則蓋我與敵之距離不過七有米與其各排交互躍進不如舉全隊而行之為可

第二級至真隊雖共有其隊後有預備隊亦不能因此而不依戰鬥指揮按此種地形應隊遠有力之

戰鬥偵探方可

小排長對於散兵之注意尚不充分又查散兵中有誤向長者一名

在敵兵增加時射擊速度之更換頗不迅速

距離測距失之太遠然如此種地形容易犯此過失須要注意

分列式

連隊之分列式在戰鬥教練之後實施其隊形托槍等尚好然頭之向右頗多不足分列式為整齊教練

之尤應於教練前後多行數次以望其改進

工作

一 擬在軍事均能離等件軍事統帥肅清

與離測重 前地清掃 補助作業等之實施上毫無遺憾

二 擬在軍事均能離等件軍事統帥肅清

三 擬在軍事均能離等件軍事統帥肅清

先察檢閱等件之經過因情況切迫又令解檢閱且於作業中之身邊比甚同意然先察檢閱之時背囊亦應

卸去俾作準備之便

四 擬在軍事均能離等件軍事統帥肅清

五 擬在軍事均能離等件軍事統帥肅清

六 擬在軍事均能離等件軍事統帥肅清

新兵野外教育計畫

教育方針

一 教育計畫者本教育之宗旨及其順序以配置各科目授受之時間決定實踐之方法也然本表僅及概要各星期每日間之計畫跡近繁雜概從省略

二 教育計畫其基礎先定乎時間故時間之計算不可不綿密詳審如將第一期可以使用之時間算出總數並須顧慮遇有不能避之妨礙能減殺時間十分之二凡可以教育之各科目斟酌輕重難易妥為分配且各星期及各時間之種々設施皆須秩然有序否則不免畸輕畸重而弊實叢生矣

三 第二星期以後須豫定每日之課程若僅據概要之計畫表似嫌疎略故宜參酌前星期進步之景况及天候之變更並上官之期望精細而計畫之

四 科目之配置教法之次第固依戰備為從違然不審其粗密繁簡之程度則亦勞而無功蓋配置科目以連貫為主假令心力手足同時並用交互不絕則不惟不能新其知覺且適以速其疲勞意氣銷沈而倦怠起矣故教育之巧拙視乎配置之當否其關係為最大也

五 據以上所述之要旨精細計畫無論何人咸知教育事項頭緒紛繁往往以時間過少引為至難故利用時刻為極緊要之事夫利用時刻雖無時或異特於野外演習途上如養成行軍之紀傳達命令報告連絡兵之動作警戒之方法以及測量距離凡百當日所行諸件試以問答使之確實記臆最為有利

六 教育於每日之終須將關於翌日之教育或下以命令或與以特別之任務或示以所應研究之要點即令助教助手未能日受教官之用意亦不可不據豫定表所示籌畫新科目之教授法及矯正各兵短處之方法俾實行教育時毫無遺憾

七 野外之演習以準備多者為愈然準備演習如不能於豫定之時刻內實行不可謂非怠慢也故須於開始以前妥為設備且下可不注意左述各事件

應教授之科目 應利用之地物 應問答之事件可以口授或可以指示之模範事件 應檢查或矯正之要點 可使助教助手分任之事件等

無右所述之準備而任意教授者禁之

八 野外之動作當實戰時於上官監視之外須各人之獨斷獨行者頗多往々有因一兵丁之愆尤致釀成全軍之敗績者是以野外之教育較練兵場之教育更須詳密嚴正

九 教育以收實效為本旨故虛張形勢最當嚴禁而教官須振作精神勉從事乃可使兵丁潛心竭力以受教訓

十 教育之方法須十分精細決不可求進步之速教以一事必俟其既經

熟習而後以第二科目教之不可一時要求過多致兵丁之腦筋混雜反至結果不善他如野外動作乃最重要之事故通常必須將校自為統裁將兵丁一一教育

十一 最初之教育須示以想像之敵人其一切姿勢動作自應採用各種適宜之處置就其經過者循々而善誘之繼則用標兵或空色使對此等情況以熟習其動作

十二 人之氣一餒則視力減少精力衰弱而怠惰因之叢生故教育新兵須涵養其精神俾能忍耐辛苦各具戰必勝攻必克之勇氣是以野外演習須養成兵丁技能並陶鎔其忍耐勞苦之性格使之增長戰鬥力蓋人身體強健則自信力富足而志氣亦遂振起矣

十三 軍人者須有不撓不屈之氣象並須有進取之勇氣然亦不可勉強從事令長時間服役劇務蓋熱心固有利然無興味而能永續者未之有也操典曰續行同一之教練於兵丁之精神及身體之倦勞有所不恤則

怠慢生而害及軍紀矣

十四 平時演習不可不竭其精神體力儼如遇實地戰爭之狀況然過甚則猶馬匹之訓練一誤其度即陷於斃亡之慘故為將官者雖乘自己之熱心不憚長時間之勞働而於兵丁體力之維持亦決不可付之等閑不然戰鬥中將不免流於怠慢害軍紀而陷痴愚矣

十五 故與兵丁以任務須察其力量不可有過度之要求致苦兵丁也夫過度之要求不惟萎縮其志氣使成悲觀之軍隊而已甚至心身不具永遠廢棄者有之反之精神活動力量充足且時時稱許之則志氣奮發不啻助教育之進步矣故如發見善美之行動即微細之事亦不可不大加稱許以鼓舞其志氣焉

十六 利用人生之一點好奇心於演習時常能顯出種々之變化以新其見聞且精神亦自然活動爽快樂受教官之指導而不覺歷時之久此教授之要訣也又兵丁自為練磨時注意演習之興味互相檢點矯正亦軍

事學之一良好手段

十七 教育之宗旨不獨以養成二三優秀者為止境須令全兵丁皆備戰士之資格足以致命疆場須以理解力判斷力之最低者為基準而懇切教導之如是則不至流入高尚粗略貽偏於一方之憾然有最劣等而難以公同進步者則特別教育之

十八 一般之教育口授與實施相待所以啟發其戰鬥智能活動其腦力作用且應各種之時機增大效力養成其進取勇敢之美風故採用下之五段教授法最為便利

- 一 勤試問以喚起舊記憶之事
- 二 使練習口授之事
- 三 使兵丁逐次實施之事
- 四 矯正時示以原則之事
- 五 反覆應用之事

十九 兵丁已經習熟之動作無論何時於課目外不得付之等閑須常嚴為監督俾之履行毋就怠荒安於暇逸例如豫行演習槍之管理與野外之管理一經區別則兵丁於各種之時機擾起各樣之動作惡習日深而為非淺矣

二十 新兵既了解演習之要旨須常示以敵情令作實地戰爭之觀念以為行動苟不示以情況(不示預定法)雖演習亦全歸無益徒存形色耳故此方法不可或忽庶兵丁腦筋中不脫對敵之觀念

二十一 精神教育者機會教育之一端也必擇兵丁容易感悟理解之時機而施行之為要故關於兵丁之行動苟發見機會之際而其材料足資啟迪者須直對個人或全般詳加訓誡以鍛練彼等之精神

二十二 演習之終須說明實施之要旨以試驗兵丁確實之記憶又演習中雖自己口授之大要亦須時時試問以防兵丁之懈怠而促其熱心且令容易理解也

二十三 演習中須有極敏銳之眼光悉心視察一遇過失即行修正不可遲延以逸其機如評講失宜則効力乏而難以收效矣

二十四 從來野外演習教官忘現在地形而為問答教育者有之然利用目光默察四邊地形凡有關應用者勤於口授實為緊要他如距離目測搜索各種情狀無論容易困難常置腦中則隨處可以發見偶然之機會而施應不窮矣

二十五 野外演習或行軍之終恐兵丁有弛緩之弊必振作志氣以保持其軍紀故至少亦須施行二十分以上之軍紀教練不然於不知不覺之間已流於怠惰不能復振矣

二十六 調製教育日誌將教育方法及研究事項如何退步如何進步種々景况凡有足備次年參考之用者詳細記載之最有益

注意 教授新課目之際常本第十第十七第十八之理由行之各課目之計畫表其實施要領中教官自行統裁不執成法至行五級教授法

而欲一一記載之未免煩雜故錄於此

反之復習各課目區隊與助教互相研究之時則教官監督其傍以資
矯正

又各星期惟示以新課目倘其時間從容則令為以前之復習此事於
別表上縱未一一明示然實施教授終其新課目後尚有餘暇未有不
反覆復習以前之課目者故豫定表上依進步之景况既揭正當之課
目亦必定復習之時間也

步兵工作雖未備於第一期教育課目然為戰備上必要之點亦不可
不揭其大略以為教育之目的

野外演習或行軍之際不可不攜帶左之物品

卷軸標 測繩 空色 假設旗 信號旗

助教助手之責務

一 須充滿愛情於胸中並取嚴正之姿勢態度

二 言語須簡單曉亮而活潑若教官言語不明則兵丁易起不安之念即挫折其勇氣

三 常先倡率以振其活動勇猛之氣若教官精神倦怠如醉如夢則兵丁如灰

四 教授上決不可將新兵任意呵責如不滿意須反覆思審必由吾教授法之拙劣使然而深自戒飭焉

五 疾痛慘恒乃教育上最障害之物故其豫防須極力注意不可或忽此外野外演習亦不可使足受傷艱於步履

六 兵丁者國家之兵丁以防衛治安而身被公務者也故決不可使供私用以輕其價值

七 助教助手協力以圖教育之成效即有一不良之兵丁亦不可廢棄使之向隅必人人無不完美而後義務乃盡

八 教官祇示主要之課目故助教助手於連繫他課目之際亦不可不悉

心矯正例如姿勢之嚴正無論何課目皆須注意者也

九 助手縱與助教同階級亦必有安職分嚴守秩序何則對於上官尊敬之動作即為各兵丁之模範故服從軍紀之精神不可不充足發越以壯其觀瞻焉

十 助手之任務惟輔佐助教指揮之不及無直接教育之責任也故謹守助教之意旨或為直接助手以助兵丁之動作或為模範顯出助教之說明或任列兵之復習

十一 助教之復習不可流於形式宜鑑各人各個之成績或令行未習熟之課目或與以必要之試問或命行必要之體操若行各個教育則用號令監督全區隊使列兵無空費時間致攪起種々之惡感

十二 助教助手須察兵丁之性格技能導之於善良之地並顧慮其所短而補足之不可須臾或忘

十三 助教助手於一般軍事技能外須備其次之資格

愛情深而親切

性溫厚而不躁進

具熱誠而強忍耐力

用意周到而目光精細

義務心厚而以身示教

身體強壯而志操堅確

新兵野外教育計畫表

考 備	期星	星期												
		五	四	三	二	一	十	九	八	七	六	五	四	三
	開時													
	各箇散兵													
	開時													
	步哨勤務													
	開時													
	偵探勤務													
	開時													
	距離測量													
	開時													
	連給兵													
	開時													
	行軍													
	開時													
	夜間演習													
	開時													
	步兵工作													

一 本表以十二月一日入營之新兵為基準而計畫其訓練於第十七星期檢閱第六星期必先檢定之
 二 雖表示反覆之課目然須煩瑣練習而履行之
 三 分配新課目不表示進步之狀態耳
 四 豫料若干之妨礙而酌量配分故若無事故必應進步之量況而順次為之
 五 雖於各課目分配一定之動作然彼此相連繫者全賴進步當歸劃一

各個散兵教育計畫表 其一

星期時間課目教育之要點

實施之要領

第 六 星 期	三 〇 一	地物之利用 散開戰鬥之見習	利用地形之進行法 散開戰鬥之見習
---------	-------	------------------	---------------------

於練兵場既已了解散兵裝填槍之保持法 行進法 行進中之運動及停止法野外則純以單一之制式就應用之地形漸次施行之雖已開始野外之應用演習然於練兵場不利用地形之各個散兵教練不可不保其動作之敏捷確實否則如射擊之姿勢動作一不注意即流於不確實矣

散兵之主旨 三姿勢之利害 與以自由姿勢之理由者最初置假設敵以助教動手演習小隊散開戰鬥於新兵目前俾之領悟教官對於全般說明而口授之凡口授之事項所以確實其理解故須試問三列兵令述大要以下準此

利用地形之進行法者依操典第五十八對於假設敵減少我損害以進於目的地點之方法也然行進中未必能與敵以損害而減少我被害故迅速行進為最良之方法又指示新兵於二十步及五十步前方之某地點令潛行進或屈身行進而助手示之模範加以說明使容易理解

於豫定舊兵日課之際與隊長計議令新兵同至見習便易之地以舊兵為模範散兵使新兵見習再說明散兵之主旨及三姿勢之利害且於一般戰鬥經過之概要亦須教授

注意 實施時間之一點三十分鐘但行一回教育非教育之主意至少須區分為二回以上總之教育次數以多為良然次數之分配(因屬於星期日月之豫定計畫茲故者之一)任於實施者以下仿此

第 七 星 期	三 〇 〇	地物之利用 射擊姿勢 停止法 行進法	射擊姿勢 停止法 行進法 所欲占據地物之選定 最初取低姿勢 射擊姿勢 取迅速之姿勢
---------	-------	-----------------------------	---

行進法 所欲占據地物之選定 最初取低姿勢 射擊姿勢 取迅速之姿勢

依據樹木之法 依據胸牆之法

操典第六十乃至第六十八

於練兵場既已了解散兵裝填槍之保持法 行進法 行進中之運動及停止法野外則純以單一之制式就應用之地形漸次施行之雖已開始野外之應用演習然於練兵場不利用地形之各個散兵教練不可不保其動作之敏捷確實否則如射擊之姿勢動作一不注意即流於不確實矣

散兵之主旨 三姿勢之利害 與以自由姿勢之理由者最初置假設敵以助教動手演習小隊散開戰鬥於新兵目前俾之領悟教官對於全般說明而口授之凡口授之事項所以確實其理解故須試問三列兵令述大要以下準此

利用地形之進行法者依操典第五十八對於假設敵減少我損害以進於目的地點之方法也然行進中未必能與敵以損害而減少我被害故迅速行進為最良之方法又指示新兵於二十步及五十步前方之某地點令潛行進或屈身行進而助手示之模範加以說明使容易理解

於豫定舊兵日課之際與隊長計議令新兵同至見習便易之地以舊兵為模範散兵使新兵見習再說明散兵之主旨及三姿勢之利害且於一般戰鬥經過之概要亦須教授

注意 實施時間之一點三十分鐘但行一回教育非教育之主意至少須區分為二回以上總之教育次數以多為良然次數之分配(因屬於星期日月之豫定計畫茲故者之一)任於實施者以下仿此

行進法及前星期之複習以下不再揭複習之動作惟指示新課目而已故實施者勿誤解為無複習可也如得有時机即須複習以圖熟達

行進中常與實戰作同一之狀注意考察前面之地形其選定能顯出槍之最大威力最有價值之地點為貴若有停止之號令則不躊躇而即據之

散兵於野外概應伏卧若有停止之命令即伏卧於最良地點為射擊之準備並取適當姿勢若有跪下卧下之命令則直取所命之姿勢

此教育法乃對於某方向以攻擊之任務實演之前進之際時々停止令見習列兵思惟其最善之處交互實施則全般各能研究所獲不淺

伏卧而以槍依托者其射擊最為精確舍此無他良法故操練不可不勤一有時机必令兵丁作依托物以習熟之

依據樹木者非能盡避敵損害不過能利我之射擊真然應注意不以槍托密接於樹木何則一有偏側即大害命中之效力也且依托大樹或細幹須使善於審擇然大半以能利用樹木之根伏射為利此演習時不可忘者也

胸牆為防禦射擊遠敵所作然攻者亦常作之且有應用敵人已成之工事者此外丘阜堤防等大概於射擊時或依著體之左側面或前面或右足使前或右足使後種々不故必詳細區別而教之要之以精確之射擊得使於長時間繼續而已

注意 野射擊之姿勢動作與執槍之各個教練相待故練兵場已能知其大要後則於野外行之

各個散兵教育計畫表 其二

星期時間

課

目

教育之要點

實施之要領

第

八

星

期

二〇〇

敵兵發見之動作

敵兵發見

射擊準備敵
人各種兵力
之識別、
距離之目測、
表尺之裝置

地物利用之目的
地物應用之證明
可以應用之地區
降坡地
昇坡地
仰射地
瞰射地
僅之凹地
溝壕

以舊兵或助手為假設敵令二三兵丁對此取射擊姿勢比較其利用與不利用第一說明射擊之效力如何次說明被害之程度如何使理解之終以記號使假設敵取各種之姿勢令知目標之大小明暗即被害多少之所由來雖然第一目的減我被害不在修敵而在防槍身動搖使為精確之射擊此須領會明澈耳
由右之方法將利用地形之假設敵與不利用地形之假設敵比較判斷而於被害上應用地物之利益證明之使其理解
就利用之地形於前圖之外如降坡地昇坡地等所應取之姿勢二教授迄至野外無論遭遇如何地形而兵丁當能選定適當之位置與姿勢為要
微少之凹處處不有此時為臥式者則以低處落腹部高處托兩肱又為跪式者有普通體格則置左足於稍高處因其容易瞄準也
若發見敵兵第一不可不取射擊之姿勢然後考察敵為如何兵又為如何程度之兵直取動作並令報告又次令目測使判斷距離裝置表尺但最初之際固當示以模範者也
此演習之際教官使列兵為橫隊或半圓形五列令新兵學習並研究其動作之可否每一動作令二三列兵實行其意見以定最後之決斷逐次進行之
一經完畢則更參以敵於他場所令行之然有時亦得為目測之演習

第

九

星

期

二〇〇

射擊之動作

彈道之形狀
距離與表尺之
關係
適於目測距離
表尺之選定一
般瞄準點之選
定法
由距離與表尺
之差所生瞄準
點之選定
瞄準之姿勢
發射之作用
槍口之保護

教官於前方作以石遠擲之彈道述此石之進行其跡乃漸次彎曲而落下次令知欲擲遠則最初之方向須高即知彈丸之能送遠亦由槍口高上與表尺之裝置也申言之以遊標定於其位置以半瞄準射擊線上以劃綫俾知其距離之地點為命中點也
設於其發見敵自測距離四百五十米突因無相當之表尺即用五百米表尺瞄準若欲彈丸近五十米突落下則不可不瞄準稍下之方然採用直下之四百米突則彈丸落下必近但欲速送而槍口過高則目標隱於半星不能瞄準矣
目標能見之全部帶載於准星上則瞄準最為便利且命中最為精確故以目標之下際為瞄準點乃最有利者也
若目標之位置與表尺不合一時則加以修正不可不用直上之照尺計以下方之數量而定瞄準點此數量本於射擊教範之高度表用容易記憶之單任數而能記憶為良例如各近五十米突對於目標其修正量以二三五之數量而記憶之是也
瞄準之姿勢如豫行演習無論如何地盤以姿勢堅固無痛苦之感而槍口能沈靜者為良
發射之作用須如豫行演習於擊發瞬間後槍口不得動搖
野外採用射擊之姿勢槍口從地上離隔必在二十生的以上用射擊之際防其砂土飛揚侵入土地也
又草地之瞄準綫雖不被遮於草木然總不可少有掩蔽
致減射擊效力故教官須十分注意
注意 此星期之射擊既於豫行演習教育之適當行於野外因精密該豫行演習之關係而計算射擊之進步也

各箇散兵教育計畫表 其三

星期	第十期	第十一期	第十二期
星期簡課	躍進之方法	敵情判斷	射擊姿勢之更換
目教育之要點	前進之準備 依動令真前進之事	敵知我歟 敵不知我歟 敵之偵探歟 攻擊我歟 我射擊有效力歟	自臥式為跪放 自跪式為立放 自臥式為立放 自跪式離開臀部之姿勢 以跪式之臀部付於地之姿勢 使用之順序 目標之景况 彈藥之現數 天候
實施之要領	<p>先使助教助手示以躍進之模範次乃為左之說明 散兵之跑步用於未至近距離我損害不大之際然移近決勝距離當彼我射擊猛烈之時對於敵人尤須不顯者目標並勉力使時間短少故前進之準備已終則急於前進至敵人對我加猛射則速停止而移為射擊故躍進距離其數不可過大通常以五六十米突為適當云</p> <p>實施之際始跪式次臥式然臥式不得因準備躍進致其目標射擊之速度最初不問敵情如何軍令記憶一分鐘放若干響以音調為動作之加減其約量標準雖無規定大概慢射數為二乃至四發快射擊為五乃至六發急射擊為九乃至十二發此最為便於兵丁之記憶但慢射擊與鄰兵交互而行故出二三名兵丁使看鐘點於放及停放之號令問行並告以發射彈數修正其節度</p> <p>有時亦可命一分鐘為幾發之射擊</p> <p>所當注意者若急射擊施之於未經熟練之兵丁則攪亂技術實非淺鮮不可不慮故於熟練之後教授之庶不害事</p>	<p>敵知我歟 敵不知我歟 敵之偵探歟 攻擊我歟 我射擊有效力歟</p> <p>說明射擊之界限 揆二五三 精密之照準 確實之發射 (操二六五 二六六)</p> <p>使兵丁監視其方向於該方向置假設敵令為上揭之判斷若敵不知有我者則使接近於近距離又斥候而不知我者則有時有放任之事兵要之以導於十分有功力之地點而開始射擊為良然敵人發見我而顯欲逃歸報告者則縱令在稍遠地點亦以射擊為良也</p> <p>判斷射擊之効力其標準在使記憶射擊之界限故不問如何形勢若發見敵人則先目測距離比較此標準而審度其有効力與否以定射擊之從違</p> <p>兵丁宜抱擊斃敵人須等於攜帶彈藥之覺悟苟判定其無効力則決不可射擊何也射擊之界限內縱令顯出敵人然此敵人為馳驅之狀態即我呼吸切迫鎗口動搖不能命中遇有此等効力難決之時務以不射擊為良</p> <p>無論取如何之姿勢為射擊者總須鎗口沈靜其動搖之間決不可射擊因此助教手常應注意鎗口也又擊發之際肩形斜突或急擊而變換鎗口位置則告以射擊無効探究其原因而矯正之此等事若僅於豫行演習時注意而於此外不注意則射擊必無進步也</p>	<p>依據典第六十五之要旨凡伏卧不能得自由之射擊界時於發射之際可巧取跪射或立射之姿勢然已射擊後則不可不再伏卧因此遠定適宜之地形應記號使出假設敵對於此為右之動作行此者即進卧式之左膝為跪式出跪式之右足為立式為良</p> <p>又跪式過低立式過高之際則放開臀部如將立射之狀而射擊地形前方稍為降傾之際則出兩足以臀部置於地上者為良</p> <p>左前之彈藥盒用盤時則以後盒或背囊之彈藥補充之右前之分於後使用</p> <p>射擊之緩急依目標之大小明暗及彈藥之多少天時氣候如何而定又演習時出諸種之假設敵說明而後實施之</p>

各個散兵教育計畫表 其四 (伍之部)

星期	第十三期	第十四期	第十五期
星期時間	二、三〇	二、三〇	二、三〇
課目	伍之動作 彈約節用	各個戰鬥射擊 擊豫行	防禦及攻擊之戰鬥法 靠攏 歸隊
教育之要點	<p>伍之散開 歸隊 散兵之協同 槍有障礙及 兵丁自傷時 戰友戰死時 散兵之運動 彈約節用 射擊速度 彈約之現數 戰鬥之連續 補充之困難 (操二五六)</p>	<p>無指揮而射擊 有效者 (操二五五)</p> <p>養成勇敢快 活之氣</p>	<p>防者節約彈約 之事 防者接近敵人於 有效射擊之下 攻者一意为肉 迫敵人之計 (操二五六)</p>
實施之要領	<p>單一之散開法無論如何地形後列兵必出前列兵之左使記憶之且教授此二人無時或異故最初之際以帽之標記區別前後列則監視容易矣 槍有障礙則與離開戰綫者交換槍劍 負重傷而不能戰鬥者則交付彈約於戰友負重傷而死者則收拾其彈約 凡前進停止之二人同時前進宜求連擊同時停止 須不妨害射擊又不爭一地物協力同心其行進中因地形或少離隔或稍偏於側方無害也 若繼續快射則於何時間得行決戰何時間得受彈約之補給務當以數計算使必要之節月明澈無遺</p>	<p>各個戰鬥射擊依教範所指示於每兵與以射擊或防禦之任務令對於假設敵演種種之動作又兵丁毫無休息依次序報告其判斷及決心教官一矯正之 報告之一例 前方獨立樹之右顯出敵之單獨步兵 目測 三百五十米突 表尺四百米突 瞄準點 下脚射擊 此際教以修正槍之偏避又同時於同綫上或遠近之二地點令判斷顯出之假設敵研究其効力及情況如何射擊 突擊行於短距離以衝破敵兵而占領陣地為宗旨至少須突貫二三百米突並以有利之射擊 追擊 敵人使養成其習慣</p>	<p>任防禦之兵丁不宜由遠距離射擊必勉俟敵人入於中距離後然後射擊然雖由中距離射擊須於敵人停止少行進多既入決勝距離界始可行其猛擊也 攻者不以敵彈為意近接於敵之時當休息以回復我呼吸之切迫俾攻擊力加大容易為爾後之前進然真決勝者為六七百來突之幾故教官宜以此教之並時時告以彈約之遠近俾為表尺及瞄準點之修正 伍之散開漸次增加伍數此星期約行一小排之戰鬥法令小排之散兵或歸隊或靠攏再散開三靠攏一切動作須使如小排長之意而得集散離合自由運動焉</p>

步哨勤務教育計畫表 其一

星期時間	課目	教育之要點	實施之要領
第七期	<p>一般之隊形</p> <p>步哨之任務</p>	<p>六哨之任務</p> <p>前哨區分之概畧</p> <p>步哨之任務</p> <p>一般之守則</p> <p>一般步哨之動作</p> <p>步哨之監督法</p>	<p>最初說明前哨一般之任務為求容易警戒於配置時配置於助教助手能見之處而示以僅大排形其為複哨者則由排哨或獨立軍士哨差出為全綫之耳目對於敵須使排哨或獨立軍士哨不受不意之危害縱有敵襲亦令排哨或獨立軍士哨負整頓戰備之任而教授之</p> <p>準右之任務步哨無論何時何處不可不行一般守則之所規定而示以教授固以助手為複哨實施其模範並逐次說明而令其記憶</p> <p>一般之動作在教以不斷警戒 不吃烟 不設話 不放槍等</p> <p>監視法第一注意敵方至要之道路及敵現出可恐之地點並顯著之目標複哨則形如鳥目一人右方一人左方分任監視</p> <p>注意 學科雖於此無關係而就全體教育所應注意者如步哨一般之守則學科內可以教授之事項於術科之前後必行之以助術科之進步其他之課目皆然</p>
第八期	<p>步哨一般守則之應用</p>	<p>疑徵候之判斷</p> <p>報告之實施</p> <p>傳令雜役兵通過查哨之法</p> <p>夜間之問查法</p> <p>托槍於腕之方法</p> <p>不敬禮上官之理由</p> <p>對於巡察及將校之動作</p> <p>動哨之動作</p> <p>地形之研究</p>	<p>於實戰與以徵候使之處置且令報告而其報告時須區別其為自己所見或他人所見及自己之判斷並為將來之處置</p> <p>雜役兵不必論於前方無部隊之際雖傳令使亦不許經過故對於此使為其處置又若有送於查哨者可不用查哨之名稱而但指示其處可也</p> <p>夜間之問查法惟對於可疑者行之如明知為自己上官則不問也然問查以持槍作射勢五六步前進而詰問者為良此因欲早確不使知為步哨也</p> <p>以托槍於腕之方法教全員使之</p> <p>為使射擊不中絕故對於上官不行敬禮然應答之際亦不許注目上官或窺其側面蓋步哨之責任重大故也因此並令於遇有不從步哨之命者為理解其得有射擊之權能</p> <p>動哨與鄰步哨連絡交換敵情定監視區域之分擔且警戒步哨與步哨之間凡步哨不可於直綫往來因敵容易認識故由地物之後方往來或迂回於稍後方往來為良</p> <p>步哨宜使為地形之研究即前方著名物體之距離目測或夜間敵易近接之地點及敵不能經過之區域而識別之為利故勿論排哨長巡察即步哨長亦時時試問不可怠此研究</p>

步哨勤務教育計畫表 其二

星期時間	課目	教育之要點	實施之要領
第九期	特別守則 步哨之任務	於守則記憶其一定之順序 位置之撰定 遮蔽物之設備 查哨於步哨動作時軍使降人之待遇法及對於通行民之動作	初教以一般之順序要點令暗誦之試問二三列兵次授以現地應用實際之特別守則終令助教使各兵順述之確實其記憶 <small>(定守則之順序自己之體裁前也)</small> 步哨以不為敵所見而能見敵之地點為適當故以此主旨步哨自定地點若平地等易被敵認識之地點則臨時以樹枝或他物體設必要之遮蔽物教官說明一切為假設敵令新兵認識右二種之情形 查哨之步哨於軍使降人前來之際決不說話依查哨長之命護送於排哨長然軍使之一行須掩蔽其目不令窺我陣地內情又降人則令早撤武器而為我有使不得抵抗 前方來之去志送於排哨長後方出之士民則不許通行可疑者捕縛以送於排哨長 依上所述之法則於最嚴正監視之下而時槍設送肯不從命及希望逃走者可用最後之手段射擊或刺殺之
第十期	對於敵之處置	敵之發見之際 一隱匿 二射擊準備 三協同動作 四視察 五判斷 六報告 射擊之時機	此演習以步兵偵探一團馬兵偵探一團出為假設敵以同一之事項演同一之動作逐次教授而再三演習之無論如何必異其時與地方 步哨本為警戒兵不具戰鬥之性質然遇發見敵兵之際則準上揭之六條施行之 若先發見敵兵則宜隱蔽其身不被敵見並測其距離準備隨時可以射擊裝定表尺豫備槍器二人相議而視察其兵種兵力並判斷為敵之偵探或部隊與否又研究其行進之狀況係知我與否若係發見我步哨綫而有退卻之情形者則二人相議一人為右兵一人為左兵配置目標直向射擊又對於敵之部隊若躊躇不定我軍即有陷於危殆之虞如此判斷之時二人可行急射擊以代報告其他則概不射擊但以一入至排哨報告可也此實施演習之方法教官志依自示之方針而為五級教授對敵之動作皆然 步哨行射擊之時機雖為重複之事項若異名稱而教授之則更便記憶也 一 受敵襲之際 二 躊躇不定陷於危殆之時 三 對於不從步哨指示者 四 對於洞見我配備將歸報告者 於其他地方雖受敵猛射然決不應射嚴為監視可也

步哨勤務教育計畫表 其三

星期時間	第十一期	第十二期
課目	對於敵之處置 對於我偵探之勤作	對於敵之處置 步哨之交代 展望哨
教育之要點	對於軍隊通行徵候之處置 見敵之部隊移動於側時之處置 受敵騎射擊時之處置 對於敵襲之處置 對於我偵探之勤作	軍使降人 其他指哥疑之人至查明位置之勤作 特別守則及見聞事項之申送 卸任步哨之報告 複哨同時之交代 每一人之交代
實施之要領	為步哨與以特別守則次由遠方示以車輪音響犬馬吹嘶等種之徵候令其處置即以一人行報告一人監視其方向是也 敵之步兵約一小排由前方之部落移於右方之部落(假設敵此時步哨即應報告並通報於鄰複哨敵之馬兵顯出四五名射擊我步哨此係偵探我步哨者故教授步哨決不應射惟陰蔽而監視之耳 敵人一排以上之步兵勇敢前進步哨已判斷為敵襲時則二人協同行急射擊於敵兵漸接近然後反走但不宜直進排哨之方向務迂回盤曲誘敵於側方俾其侵入遲遲而我排哨之戰鬥準備得以完全也 對於我偵探之進出須問其方向與歸還之時刻並告知前方之敵情 對於歸還者須問其所得之敵情 行此演習之際以曾學習偵探勤作之新兵授以任務使為偵探而令再三通過於步哨綫	上揭之諸人等偵察我步哨綫及陣地苟有可乘之機即將移於攻擊此等意思敵人所常有者故步哨就自己之警戒與不斷之監視絲毫不可怠忽 凡自前面來之人先以外國人不知我國語之例待之為之指示若為敵國人而解我國語者則用兵語反有令彼知所配備之恐故惟示以方向令行於其方可耳 此等演習最足發眾人自然之笑故乘其興致演出助教助手(或假設的)之滑稽但往往與事實有相反者不可不注意也 步哨之交代於一定位置低聲申送往復利用地物使敵不知我交代為良 步哨服務中出假設敵以檢點交代時之申送卸任步哨報告敵情於排哨長 短時間之前哨雖可與複哨同時交代而警戒上以每一人交代者為良 步哨之交代示以一順模範令區隊實施之 於展望良好之所置展望哨與以望遠鏡令報告遠方之敵情及地形置傳令於基脚俾之連絡不絕

步哨勤務教育計畫表 其四

星期時間	課目	教育之要點	實施之要領
第十三期	二、三〇 三人哨 四人哨 軍士哨 獨立軍士哨	雖支多休憇然必以三人為步哨而監視敵方 哨所之設備	與敵相對屢顯出敵之偵探警戒宜嚴之際則因三人哨四人哨或軍士哨蓋敵屢顯出或歸報告因而擊我步哨其戰例不少故在三人哨以上者至少須以二人停止而為複哨協同之動作 以二人監視其他雖可休憇然不可離開守地又談話吃烟皆所不許祇宜蔭蔽而養心身之疲勞其中最嚴禁者為談話因此能受不意之危害也 返寒或酷暑之季哨所須用掩蔽物即於步哨及交代兵之休憇所設備掩蓋此演習雖非特時行之然必以應用材料(黍藁柴席樹枝等)行至一次為良
第十四期	二〇〇 排哨之勤務 抵抗綫之動作	槍前哨之動作 架槍之注意 偵探巡察等之區分 巡察之動作 背囊之位置 露營之準備	於槍前哨指示以各種哨軍士哨之位置令監視其方向並於凡通諸哨之捷徑及至前哨中隊與鄰排哨之道路亦使知悉 依任務區分排哨之兵丁使與同時交代之步哨同架槍巡察雜役及其他休憇兵丁一示以應為之動作而令行之但於物品之調劑及破壞等僅用假想說明而止 日沒前顧慮樹木耕作物等而經始其位置說明其方法定前哨隊之位置及抵抗綫按時札而令襲擊假設敵又教育步哨及偵探之動作報告之方法槍前哨之舉動過警急集合則令迂回側方退就於陣地(抵抗綫在後方時) 終則將以上各兵丁之動作精密講評之 注意 以助手為假設敵教官自為排哨長助教則為步哨長或偵探監視而行正式之配布
第十五期	二〇〇 排哨之對抗 演習	全般之複哨	此星期偵探之教育既終則令與舊兵或他隊之新兵相對抗而用空色演習其目的使練習步哨與偵探故用全員之半數為偵探(以優秀者為偵探長)四分之一為步哨他四分之一為交代兵步哨則每隔四五十米而配備各以助手一名為步哨長偵探則集於稍後方排哨之位置使逐次出發偵察敵之配備助教之半數則中立於演習外前方適當之位置監視偵探之動作而教授之其他半數為巡察令監督步哨綫之對敵動作而教授之

偵探勤務教育計畫表 其二

星期	時間	課目	教育之要點	實施之要領
第 八 星 期	二、〇〇	陰蔽地之遭 遇 偵探之著眼 點	由開闊地進入陰蔽地之法 由陰蔽地進出開闊地之法 停止之位置 意度或有敵意之地點之觀察 地點之觀察	對照模範說明左之要旨 陰蔽地者敵之偵探部隊及伏兵可以隱匿之地不能由遠方識別者也故豫防危險不可三人同時進入因遭遇該敵宜有人報告故先令一人進入視察情況認為無事然後偵探長進入其他一人命隔三四十米與繼續行進若在大陰蔽地尤以不誤行進方向為至要之事 從陰蔽地進出之時須於前方豫為一般之視察特於通路附近及側方認定其毫無危險並選定可以停止之地點而躍進之如輕率進出至躊躇於平地則其受害不少矣 凡於停止之際第一視察要道附近高地林緣及敵兵最易顯出占領之地點次研究全般之景況定次回之停止點及所行之種種方法 若發見可疑徵候時有餘裕則迂回停止如本隊在直後無迂回之暇則令一人向此前進以確察其情況行此演習有左之二法 其一 教官自統帶偵探或與之情況或與以任務或試問常令偵探交代繼續演習而前進列兵則隔五十米突為半圓形以便步跟隨見習偵探之動作而應教官之試問 其二 每區隊之助手授新兵以任務而令出發助教則於豫定停止綫矯正偵探之行進法
第 九 星 期	二、〇〇	部落之搜索 法 隘路之搜索 法	小部落之搜索法 大部落之搜索法 小森林之搜索法 大森林之搜索法 短隘路之搜索法 長隘路之搜索法 在途地點之特	小部落則以一名或二名行其內部其他則於一側或兩側行進占領前線小森林亦然於橫方向之道路及空地則須確實連絡不失協同之力若部落有土人則可尋問敵情 若係大部落則與陰蔽地內之道路行進法相等三人前後相重於大森林亦然 若遭遇短隘路則先視察其前緣若無危險乃使一人前進實無障礙則令他人繼續若在長大隘路則先令一人用跑步前進俟達至中部以上偵探長乃發進偵探長達於前線仍無危險乃為第三之發進然在於米突以上者偵探一人不能得力故必出二人或三人之偵探或精幹者令依上之要領而搜索之 行右之演習時於隘路口附近置列兵於通視全般便易之地點教官出若干班之偵探一一演習使得滿足之結果而止 偵探不論情況不問地形凡經過可以通視之高地附近必令一名登臨考察全般之地形及情況

偵探勤務教育計畫表 其三

星期時間	第十期	第十一期
課目	偵探之動作 高地之搜索 法 敵兵陣地之偵察法	敵出會時之處置
教育之要點	連繫與分任 高地之判斷 偵探展望哨之有無 工事之有無 觀兩翼及前方之情形能備之概要 法	遭遇敵偵探時 遭遇敵部隊時 發見後之動作 一 隱匿 裝置表尺 互相通報 視察敵情 二 應判斷之事項 敵之偵探數 部隊數 敵之前衛數 前哨數 敵知我數 不知我數 敵之兵力 三 處置 敵之我少之時 敵比我多之時 已知我之時 不知我之時 四 報告 時 地方 兵種 兵力 方向 意見 將來之處置 五 敵不知我而為監視之事
實施之要領	盲目者搜索物品將兩手張開左右探察決不衝突亦不交又思察其物在茲始近接協力以取之蓋同受命於一體故兩手得為協和之動作也偵探之連繫分任理即基此亦決不可不受偵探長之支配而為其動作例如用目所不及乙補之乙目所不及甲充之然於未熟之間三人同著目於同一之方向往往有不能發見他方之敵者故雖六眼實無一眼以上之價值也 偵探之行進方向遇有高地時最要留意故宜精細視察斷其是否為敵之陣地如有可疑須先就其為不利於我者而充分視察之如我之左右有無步哨 偵探 展望哨之警戒兵 及有無工事 其兩翼或陣地前有無敵兵 皆最宜留意者 設有若干之敵見其為監視兵則宜如何動作即從陣地之側翼窺其內部及後方並判斷其概畧之兵力與位置 右之演習乃示以想像敵使對之而便於動作也但僅令理解概要不可教以高尚之事	此動作最為重要察諸種假設敵或示以模範或令之實行依次序反覆之使之明志無遺 此動作經二星期凡於教育有便利者一並揭示之 第一項隱匿之條與用步哨之際同 判斷敵情無論何陣地其最前方為警戒兵即偵探與其步哨偵探亦有停止之機會若見我而隱匿者則係停止敵兵必非步哨又識別其後方是否有部隊殊非易事故不可不暫時停止視察敵兵及其四邊 此等以助救助或舊兵令顯著實況以否而部則以假設謀為良對我勇敢前進而無畏縮者先判斷為前衛則知後方必有部隊或兩翼有監視兵無前進之景況者則可判斷為前哨如敵知我則必呈出隱匿之情形不知我則必毫無顧慮隨意監視他所 敵之偵探先發見我時則必掩匿踪跡而變進路故必先敵發見 敵之兵力不云隊數而云人員即云敵之步兵約五百人馬兵約五十騎砲六門是也其算定之法先視其隊形並計其行軍長徑為良此教育不拘時刻凡目擊他隊之際直使算定俾其熟練 報告必含有上揭之事項此演習若不屢行則不能明瞭報告而地方及行進方向最須明瞭報 又報告於最後附以判斷之意見使為今後之處置 偵探不論何時一發見敵即宜不失敵之踪跡若敵未知我則尾潛行以情形逐一報告於本隊 此演習令假設敵自由轉移而教育以偵探連絡報告等之動作

偵探勤務教育計畫表 其四

星期時間	第十期	第十四期
課目	行軍前哨之偵探	特種之偵探
教育之要點	行軍偵探與前哨偵探之區別 行軍之偵探 前哨之偵探 步哨線之經過 停止偵探 地形之報告	戰鬥偵探 追躡偵探 地形搜兵
實施之要領	<p>行軍偵探與前哨偵探之區別</p> <p>一 行軍 本隊行進中偵探始終用跑步於本隊前偵察得遲滯於後因大部隊之行進不以一己之隱匿為重要故不畏被敵發見但勇猛直進不失連絡以為本隊之耳目無須地形之報告也</p> <p>二 前哨 本隊停止其時間無一定之制限則以獨立行動不取跑步亦可且不須互相連絡然決宜防敵知我所至並記憶地形而為報告又有時可御背囊</p> <p>凡與偵探之命令極宜簡單不然則離隔而失連絡遂不免種々之害</p> <p>命令之一例</p> <p>行軍 汝搜索比森林至彼獨立家屋 汝搜索比部隊至付端監視前方</p> <p>前哨 汝由第二複哨之位置搜索甲村之敵情二時間後經第三軍哨之位置歸還</p> <p>經過步哨線時之動作於步哨時已說明今從略</p> <p>護衛停止軍隊之際或為前哨配置之掩護有出停止偵探者其動作同於三人哨須偵察地形為歸還後之報告</p> <p>關於道路 河川 橋梁 高地 村落 耕作地等之報告</p>	<p>戰鬥偵探乃警戒戰線之側翼宜於散開戰鬥之際併教育之而其應注意者在不注意側方僅監視前面之敵甚有加入於戰鬥者亦須注意也</p> <p>追擊射擊已終出追躡偵探令尾於敵之退卻線報告情況</p> <p>令假設敵速退使列兵尾行而跟隨之</p> <p>駐軍間或戰鬥中代隊長偵察實地</p> <p>例</p> <p>有與甲村相通之道路否 得陰蔽行進於乙地否 得通過丙水田否</p> <p>其他河川 橋梁等令實地偵察之此為地形搜索</p> <p>因此於以上地方教以步兵經過之最小限然在實際則依程度為問題俾之富於經驗</p>

距離測量教育計畫表 其一

星期九第	星期八第	星期七第	星期六第	星期五第	星期時間
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	課
四百六百之 目標及地上 之視定目測	二百四百之地上 視定 選定中間點之 法	二百四十之 視定 目測	二百視定 步測	步測	目教育之要點
同前	中間之平地時 中間之斷絕時 草木映目之現象 選定中央可位點 而二倍之	立式 臥式 之視定 跪式	基準距離在二百米 連之目標視定	複步之計算法 直達之步數計算 未達換算法 某距離之步測	實施之要領
同前	敵兵身軀有大小限制有各種若專以視像為測定必不確實故其一方須視定迄於目標之地 上之長短因此於水平地之方向及斷絕地之方向 各出一人為標兵比較而判決之 依目標附近草木之明暗粗密而測定其距離亦一方法也 於距目標之中間設想二分之一之地點而測量之以此二倍即可 得至目標之距離 令為四百米突以內之日測試開其中間點及判斷之要點	視定法同前 今比較二百四百米突之顯象而記憶之 初以立式次以臥式次以跪式變化自己之姿勢而 測定之時姿勢不同則所現之視象亦大有差異 四百米突以內之日測 目測之時於演習前先用測定距離或於既知距離 內使測之為良若有大誤處則於兵前以測繩 實測令其真知亦大有利者也	以二百米突測四方配置三式之標兵使其現象 映於腦中即熟視三式之明暗大小於太陽在前 在後在東西之明暗大小而比較之使記憶於 腦中迨後日對於他目標則以腦中所記之現 象比較其遠近由二百米突或遠或近或近至何 度均不難實測也 令新兵於二百米突以內目測所測之數不使他 人聞知但以其數告於助教筆記之有七分一以上 之誤者命再測之	標示某百米突之間終始以同度之步法自由 行進使之反覆履行而與複步之計算法相 互練習以歸於同一之步數後依其程度教以 測量未知之距離 次以複步換算米突之方法其中最便者每數 箇人踏規定之步幅為七十五碼知以複步數之一 倍半為米突其他則於每百米突以內用十米突 每十米突以內用一米突之步幅而測之 距離步測最初使為往復二回測量以二十分以 誤為不合格命再測之 複步與米突之關係及換算法並米突與里數 之關係於學科中尤宜加意教授	

距離測量教育計畫表 其二

星期時間	期星十第	期星一十第	期星二十第	期星三十第	期星四十第及五十第
課目	比較目測 幅之目測	近距離之目測 口誦節調	山地各地之目測 音測	海岸陰蔽地 之目測	目測之演習
教育之要點	既知距離 幅面之目測	六百米達為各地 之目測	山地各地視像之 比較	道路上 部落內 森林內	誤遠之地方 誤近之地方
實施之要領	以既知之地距或目標視像比較第二之目標而目測之法 幅員目測亦最初於基準距離使視定百或二百米突之幅而後移於目測 以上諸法於測敵兵障地之正面或行軍長徑均為至要	既知各種目測法先令反覆練習近距離之目測然時於中距離以上顯出目標令漸能測遠 口誦節調者使其速度歸於一定即以數數之或屈指計之或輕敲鎗床而數之 各區隊助教觀錄令於十秒鐘以內測之 要領同前	由山測山由山測谷由谷測山由谷測谷使比較而熟習之 令測遠距離之一齊射擊	目測專恃腦記依此標準於實地比較而測定之 若不時時施行確實腦記之標準則決無進步故雖十分間亦須於各地勉行之使之習熟目標之視像於左之地方往往因種種之變化誤其目測	春夏秋冬 朝晝夕夜 森山原海 晴陰風雨 太陽之方向 自己之姿勢 見敵之一部或全部 有此不同之情況則目測為急務矣故教範所示之情形茲不必論即顧慮右之關係一年中必不可不常常練習目測 故不必專定目測之課目但於每演習之際如裝表尺時之報告決不可不偕目測併行且於行軍途中或演習之前後休息時雖僅少分之時間亦必行之又目測之誤不許過八分之一以上

傳令連絡兵教育計畫表

星期	期星八第	期星九第	期星十第	期星十一第	期星十二第	期星十三第
星期時間	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
課目	對於上官傳令之態度	信件之傳送 常急至急之步法	各種報告之傳送	宿營及命令之傳送	行進中之傳令連絡	戰鬥中之傳令連絡
教育之要點	正面停止 呼上官而受物 品者 呼行進中之上官 而報告者	信件之管理法 步法之識別 步法之調示	偵探長之報告 先鋒長之報告 隊長之報告 工事之報告	宿營命令之模範 外衛其他日 之事項	出發命令 警戒命令 部隊間之連絡 先鋒兵之連絡 側衛之連絡	閉進命令 攻擊命令 拒支命令 隊長間之連絡 監視兵之連絡
實施之要領	不論何時立正而行敬禮 有多數之上官時則呼所要之上官而行敬禮 呈受物而時同陸軍禮式 在行進中時呼上官而不停止行進但自側方隨行報告 右以順模範於教官助教確居之處令助手傳令兵卒 而教授之	受領信件第一視其受信人之姓名如不知其所在則問 之其於步法之符號須認真無誤 十字一個常 二個急 三個至急於既知距離之地配合 常步跑步使往復行之以所要之時間為標準而令其比較再 三反覆使記憶其速率之程度 若口傳命令時不近上官不為跑步而呼吸之切迫言語之 不明瞭均宜避之無別命之時則歸路可取同等之速度	教官豫以上揭之理想報告筆記於厚紙稿為模範令暗誦 傳送即如以各一葉分配各區隊使逐次交換之 此報告用各種兵語凡應報告之要件悉網羅之而報告以 簡明為要然有時俾兵理解一般報告之事項及順序則 不能不反覆詳盡也 無信件之傳令由上官示以步法若未示之際則問之 至急之報告以聲音能達為限由遠方大聲報告然後行進 令記憶傳送關於宿營理想之命令 日日命令之傳送所應注意者在兵士態度之嚴整與途中不 守步法者之配合該不論何時使用傳令必示以任務與 步法之緩急 要領與前星期之報告同	關於命令之要領亦與前星期同 部隊間之連絡兵常以得見兩部隊為限其前進停止則以鎗 由前而後或由後而前為記號 步兵之連絡不惟示其前進停止而已常注意後方部隊之 進退與距離確實保其連絡 側衛之連絡不惟報告本隊之運動且必使知本隊之前面 為何狀 此教育於野外演習途上往復行之	關於命令之要領亦與前星期同 戰鬥時伏臥於營管與隊長 隊長與排長之中間不論戰 況如何於兩隊長之記號無報告令逐次傳送之因此教育 乃實施一營戰鬥展開之一部者也又警戒兵或監視兵之 連兵於詳細報告敵情固不可緩縱令敵情無變化亦須 時時報告以確實其連絡 連絡兵及傳令之演習不專設課目但平日能於以上之 實行確實嚴密監督其矯正之自然習熟	先鋒兵係夾兵先鋒長係夾兵長前鋒兵係前兵前鋒長係前兵長他仿此

行軍教育計畫表 其一

星期	星期九第	星期八第	星期七第	星期六第	星期五第	星期四第	星期三第	星期時間	課目	教育之要點	實施之要領
星期九第	三〇〇	二三〇	二三〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	一〇〇		行軍之目的 旅次行軍	增大行軍力之注意 地物之名稱 地形之識別	拔隊前先行以行軍之目的及全般之所應注意者次因教育上揭示之要點授任務方法於助教令各區隊每相隔二十米突於行進時實施之 此星期不攜武器惟用腳絆 但助教助手必攜行之 今前
星期四第						旅次行軍喇 叭譜			地區地物之名稱		行軍中吹奏喇叭令記憶其譜 服裝僅帶劍而已
星期五第					警言戒行軍之 見習				警言戒隊之任務 隊之區分 搜索之方法		拔隊前說明上揭之要點 於二三年兵之警言戒行軍時先位置於見習容易之地點就現之模範說明關於偵探之動作使理解其一般之要點次令各區隊隨從前鋒隊由助教說明之 攜行鎗與劍(約盒則左前一箇)
星期六第				旅次行軍 兵語					地區地物之名稱 常用之兵語 軍歌演習		為振起志氣行軍容易則莫如今唱軍歌特每於行軍之歸途必常常行之 服裝 添帶雜囊
星期七第			行軍軍紀						軍隊之團結力 對於艱苦之忍耐力 空道路之側不亂隊伍		於前夜之學科教示行軍軍紀令本日實行之 助於區隊之前為嚮導教官助教停於前面一側嚴密監視且矯正其步法及鎗之保持法如是反覆施行不厭煩瑣
星期八第		先鋒兵之動作 先鋒長不與連絡									自為先鋒長令各區隊依次為先鋒兵其他作為前鋒隊置於後方令助教凡關於先鋒之動作或為教授或使試問既畢而宜集合者則附於最後尾 各助手為假設敵依其任務使漸次退卻 服裝 增加不真實之背囊
星期九第	先鋒兵 退卻 (強行軍)									不亂隊伍者 益增元氣者	在本隊而欲支持退卻則率引全隊令常步學跑步混合為六十米突之強行軍 服裝 附著彈藥盒全部

行軍教育計畫表 其二

考備	期星五第	期星四第	期星三第	期星二第	期星一第	期星十第	星期時間	課目	教育之要點	實施之要領
	八.00	七.00	六.00	五.00	四.00	三.00				
後鋒即後衛兵	警戒行軍	警戒行軍 水田經過	險路經過 急行軍	駐止護衛 後衛之動作 渡船法	側衛之動作 軍橋渡河法	前衛之動作 徒涉法				
	戰時武裝	全前	不亂隊伍者	從上船陸之疏密 為跪式者	步調不整者 速度不變者	攜手並列 自前鋒兵出之偵探		徒涉點之選定行 進方向	於良好天氣以武器裝具不濡於水為限使行徒涉其形如左	
	凡行軍中第一回之休息必行服裝檢查 無彈藥及攜帶口糧之時則加代用品為戰時之重量 已教育者則複習之	於機動演習每遭遇水田不惟紊亂隊伍為運動之害且有 傷於軍紀此盡人而知者故於水田通過時須說明足之運動 與稻株之利用等使保持常態而不破壞隊伍因此前後行 可離開六步 服裝增加飯盒與豫備靴	既理解行軍之一般及知悉行軍軍紀則更以增大行軍力及 伸張軍紀之目的不僅使行道路或經過險峻地或斷絕地 雖過種々障礙亦不更以維持嚴正之隊伍 急行軍之目的亦然 服裝增加襯衣袴二件及水筒	由行軍中而為大休息則施行先鋒之警戒法 各偵探之距離至少亦為二三百米突停止於要點使監視前 方文武食事 後衛之偵探若受敵追及則出於側方而警戒之然應注意不 妨害本隊或後鋒之射擊為良 用渡船或普通之舟兼漕艇術行新兵之渡河 服裝增加器具	軍橋上不取步調應各自靜肅以渡之其教授已示於要務 令之要件 若無軍橋則渡普通木橋亦可 設敵在側方本隊與之並進而警戒之 側衛之斥候在利用地物然以不被敵人發見為要 服裝不攜雜用器止附著外套	令水不增深不受抵抗力而從容達於彼岸 為與本隊離隔稍遠時應注意於連絡 服裝增加雜用物及襯衣一襲	0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00			

夜間演習教育計畫表 其一

星期	第九期	第十期	第十一期
星期時間課	一〇〇	一三〇	二〇〇
夜間演習教育之要點	方位之識別 視力 聽力	行進法 水平射擊	步哨之動作 不齊地之行進
實施之要領	視聽力之養成 直視可增視力 或透於天空 或用望遠鏡 或空探筒等依簡易形由此中 以此教育於散兵團使一二兵卒於夕前來其發見者則呼令止 生測其距離而比較其程度 於開闊地 高地將目界附以兩手當耳際隨聲他移能增加 聽力養成聽力之演習與養成視力時同 武器之擔負不必如晝間操法嚴整但以不發音響為第一 之主眼故行進停止鎗之擔知以縱容靜肅者為良 於雜草茂盛不齊之地為不聞足音之靜肅行進約開五十步 令五六名兵交互閉目相與接近用耳聽之覺察者則無言而 舉手 匍匐行進亦以同一之要領行之 為教授瞬間目擊之目標敵之火光(射擊或音響之方向射 擊最初助教散開一步立於砲式之各隊前約五十步突之地 點其位置將定時令預備故兵卒聞此號令即閉目以鎗口向助 教最終之位置照準俟全隊隊鎗靜止後助教則令個故各兵 卒仍閉眼檢點自己之據鎗 又右之方法最初立正閉目使助教為足音或鎗音兵卒於此定其 方向以水平準即依音聲射擊其人之方法也後令個故則仍 閉眼各官檢其當否 此星期乃於晝間行者也 若跑步而音響不大則檢查服裝而訂正之 夜間之步哨無立鎗者惟據鎗或腕鎗而已 協同連絡以不用言語而用記號為良 不失方位連絡之事 應重視自兵 置假設敵應記號而顯出教育有為統制令一步哨動作俾其親之 敵行進前來我早發見則靜低身體透於天際以同敵情此特行 動及使敵知故以不動為良 問查者不必自隱但俾軍備者於五六步前問查因不 知是否係自己之步哨故也 問查演習時號否則恐為敵所欺應嚴收注意有以本軍許 之同行而卒被刺殺者故雖以為本軍而其隊號務必令明言 之而後乃許通行 報告須不誤方位及道路若非善言指示取跑步以低聲報告 夜間之射擊使敵知我位置且不易為敵中及破前哨之靜肅後 方部隊之安甯故須勉用鎗劍如射擊則惟代緊要之報告 與確實命中之時行之 歸路則迂回本道以外勉於複雜不齊之地令區隊通行	匍匐行進 靜肅行進 凡動作不發音響者 方向 水平 據鎗注 看見敵兵 靜靜伏臥不 行動者 問查法 準備 低聲 判斷 敵手 同伴來 許同行來 射擊手來 突殺來 報告 今情不齊地 行進之事	耳比目必要 鎗之保持法 應注意之件 看見敵兵 靜靜伏臥不 行動者 問查法 準備 低聲 判斷 敵手 同伴來 許同行來 射擊手來 突殺來 報告 今情不齊地 行進之事

夜間演習教育計畫表 其二

星期時間	期星二十第	期星三十第	期星四十第	期星五十第
課目	偵探之動作	槍劍術 偵探步哨	前哨之對抗 演習	警戒行軍 夜襲
教育之要點	彼我之識別 徵候之識別 連絡協同 點火法 行進法	夜間之突擊 步哨偵探之動作 危險之豫防	使偵察敵之步哨 襲擊 對此之處置 夜間射擊	偵探 連絡兵
實施之要領	夜間偵探之最苦者彼我之識別也如我偵探互相追躡其於對抗費多時間及努力而毫無所得者不少故言語動作不能判別之時要以行閱查為有利 其於徵候則不可不考察次之事項且決定偵探應報告(有別表)之諸件 靴音 武裝者 車輪蹄鐵音 話聲 草木音 燎火等 夜間偵探往往以遭遇敵人致分散而失連絡故無論何時於各個逃散應嚴禁之 閱地圖及筆記報告必須點火之時則入陰蔽地且偵探應互圍於火不使火光滿出 偵探行進務選開闊地之低處時時停止聽取音響遇市街村落則避而不經過為良又歸路必與往路異	兵丁全部務勉為檢刺術之服裝先於練兵場試行之次行於遠距離再然後於步哨或偵探使於突擊之情況行之 於畫間步哨偵探已教育之動作依此要領於夜間行之 於夜間豫防危險凡裝填之空包但宜向上方發射又著劍以上於假想而不行者為良又交卸之步哨及歸還之步哨必將已裝填之彈筒抽出且檢查之 敵之步哨綫則靜肅巡視其前方且伺其談話交代等而為偵探 一方移於襲擊並教其方法令振起志氣一方則對於此之處置順次實行且就其陣地令行夜間之水射擊 演習後必行細察之講評 注意 時々互出有力之軍士偵探教以偵察之方法五同時脅威敵之步哨令增大其警戒心	道路有曲折地形有複雜故警戒行軍不論如何情況源勉求不失連絡 因此偵探互以口笛相應本隊與前方之兵決不可離隔特於黑夜時在後方者以左手接於前方兵之背襲或劍鞘或用細繩連結之為要 向假設敵驅逐其偵探靜默前進俟與敵之本陣地接近乃突用大聲以突貫之於是占領敵陣地仍續行追擊射擊出追躡偵探以便實行占領 夜襲須乘敵之不意不使有準備之餘暇且全員並發大聲使敵震懾我之聲威而全歸於敗走	

步兵工作教育計畫表

星期	時間	課目	教育之要點	實施之要領
第三十期	一〇〇	掘土法 積土法	各器具之攜帶法 各使用法 掘法 糾草之處置 土壕之深及幅 胸牆之高與厚 一樣拋土者	<p>使各兵丁由背囊卸下器具先依附著革帶之模範使一一順次實行之</p> <p>凡將掘土應先定其區劃於使一掘所得之土不少而積於前面此際最留意於小技須使固著之泥不至落下凡叢草可作壁被須切使厚如板置之一旁以便被覆又掘開之間審其深闊先求便於臥式如是進掘即稍傾而後方低是也</p> <p>凡積土於前不專在增高宜在增厚蓋遮禦敵彈厚較高尤重也且減高增厚更可使敵難於認識</p> <p>各工手分擔之區域以標記示之</p> <p>作業之工手每十分乃至三十分即令交代其交代時須臆於記號使進退一律此際尤應注意者為作業軍紀作業之時不可言語休息中仍不許談話祇以靜肅以待疲勞之回復再應交代之命</p> <p>散兵壕攻者防者俱築之此壕之功用第一能強大我之戰鬥力次則可以長保此戰鬥力蓋我射擊之効力因此愈熾而敵火之損害因此減殺也</p> <p>就已完成之模型容易理解者使其確實記臆因說明其各傾斜及尺度之作用與其理由例如定胸牆之高以肱托於崖徑置鎗胸牆上以求射擊合度又使胸牆低於頂斜面之前方以防土沙侵入鎗口且對於敵兵縱使伏臥於直前尚得射擊是也</p> <p>說明彈丸之侵徹力及積土抵抗之必要</p> <p>最後令各兵丁散開壕內行射擊因之研究大小形狀及各種姿勢構築者無敵情之關係惟以器具行之而已</p>
第四十期		跪式散兵壕	工場之區分 開始 中止記號及動作 交代 作業軍紀 散兵壕之目的 各部之名稱 各尺度之理由 對於彈丸之抵抗力 據土壕之姿勢	<p>散兵壕大概築於敵前然亦有於敵將至而構築者故不可不說明使各兵卒習行之且不可不勉力求迅速完成舉全力而作業焉</p> <p>基於教範以哨兵壕及橫牆令助教構築而說明之</p> <p>掘固積土則抵抗力最大因此以交卸之作業手或若干之兵丁為之而助手則以小十字鋤撥積土使之平均</p> <p>完成後為求與周圍之土色同一則以糾草或枯草被覆新土使敵望見後不致有特色之疑因此令各新兵於前方約五百米突之地點使實見而確信之</p> <p>被覆之草以有根者為良故於敵未來時若有餘暇則灌水而為養草之資</p> <p>完成後行關於細部之講評此際若有見最精巧之地點則稱贊之以高其理想</p> <p>與以敵情令其散開使研究壕之大小形狀及姿勢而講評之</p>
第五十期	一〇〇	正式散兵壕	迅速之必要 哨兵壕之大要 橫牆之效用 踏固 被覆 射擊之研究	<p>迅速之必要</p> <p>哨兵壕之大要</p> <p>橫牆之效用</p> <p>踏固</p> <p>被覆</p> <p>射擊之研究</p>

考備	語兵	要典槍機	學圖測	得備出裝戰	話講生衛	話講神精	概服衛風衛	名裝器武	罰及刑陸	概法救急	大約字紅	摘條內軍	摘禮陸	起類之動	服級之武	性別種各	概要
一本表中之程度科目過者其時依時指定之	給用練開					神軍開軍			懲罰之			其通理	禮軍			之及部	編制
二本表自第十至第十五章各章均有物理化學代數幾何三角						一協任軍			犯行			士值品	禮軍			之各兵	
四本表中所定科目如無或本或成本不敷分配時則由教授者口清或書寫而後候補生筆記						一忍耐	要一服衛		大信為對			其通理	禮軍			之各兵	
		槍各級			預病傳	之衛出獨		法操革找	及刑通			術刺槍	行全工			之各兵	
			要則於簡		種病傳	得友對得	任動去兵	注裝及服	及刑通				行全工			之各兵	
					雜同	軍人得自		同上					隨武			之各兵	
			量量量			名軍軍	務作務兵	意之保物	逃許侮				大同	因及種		之各兵	
	括用開	動隊成連			因之強陸				同上				軍迎	因及種		之各兵	
					史武			同上								之各兵	
	同上		測圖算	入要裝戰												之各兵	
					摘模軍中											之各兵	
	兵府軍開	換隊按方			摘條陸											之各兵	
	同上	秋同		倉各準出												之各兵	
	5	6	4	3	3	12	3	7	8	5	2	4	3	4	4	2	補名日
					施行					教授			授細中				補名日

陸軍軍官候補生第一隊騎兵科候補生學科教育進度預定表自民國六年一月八日施行

Table with columns for course names (e.g., 衛生, 精神, 騎兵, 射擊), progress dates (e.g., 一月, 二月), and progress counts (e.g., 1, 2, 3). Includes a '摘要' (Summary) column at the bottom.

摘要

海軍詳細
材料調查
異日調查
報告

由西醫
官担任
教授

由軍
官担任
教授

陸軍軍官候補生第一隊騎兵科第一連術科教育進度預定表自民國六年一月八日施行

科目	月		週		日		時		分		秒		總計										
	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	總計	週全									
射擊																							
減藥																							
預習																							
演習																							
夜間																							
習																							
演																							
外																							
野																							
馬術																							
連教																							
排手																							
徒																							
佩																							
槍																							
散																							
持																							
手																							
徒																							
單																							
科																							
月																							
日																							
週																							
次																							
一																							
二																							
三																							
四																							
五																							
六																							
七																							
八																							
九																							
十																							
十一																							
十二																							
總計	6.00	1.10	8.00	4.00	8.00	2.00	2.40	1.40	9.00	4.00	100.0	5.00	0.30	6.20	4.00	1.30	4.30	3.00	2.30	5.00	2.30	1.00	

陸軍軍官候補生第一隊砲兵科候補生學科教育進度預定表 自民國六年一月八日施行

講生衛	話講神精	概其風衛	找稱其武	刑及陸	概法救	意之條紅	摘條內軍	摘禮陸	起類之動	服級之武	概編軍	摘勤野砲	摘教馬	要令勤野	摘教射砲	摘操砲	月		週全	
																	進	度		
	神軍國軍 人保家共 精																	一	由一月八日	由一月八日
	一協任軍 致同務人																	二	由一月十五日	由一月十五日
	名譽	要服衛 領之務成	同上	犯行														三	由一月二十日	由一月二十日
預病傳 防之染	三衛生上 注	三衛生上 注	油法 注	大要 注														四	由一月二十五日	由一月二十五日
種病傳 類之染	三衛生上 注	三衛生上 注	注裝及服 意之武裝	法三火 注														五	由一月三十日	由一月三十日
雜同 伴上	除軍自心 除軍自心	同上	同上	法三火 注														六	由二月五日	由二月五日
	名譽	務衛兵風 務衛兵風	意之保物 注之存	法三火 注														七	由二月十日	由二月十日
	三原因	三原因																八	由二月十五日	由二月十五日
	畏之武聖	同上																九	由二月二十日	由二月二十日
	摘模軍中 要範人國																	十	由二月二十五日	由二月二十五日
	摘條陸 要規戰																	十一	由二月三十日	由二月三十日
	同上																	十二	由三月五日	由三月五日
3 施行	12	3	9	6	6	2	3	6	4	4	2	6	15	13	11	9		全		
由軍 官行				由西醫 官担任			講務係參 授細中照						要馬參 教法範	要者時須 授而教依 之摘練當		練相此 不必拘一 定數教特		要摘		

陸軍軍官候補生第一隊砲兵科術科教育進度預定表

測	演		外		野		速		教		排		練		教		徒		術		馬		砲		操		科				
	距離	測量	勤務	傳探	集	密	集	密	散	裝	擊	進	槍	操	不	動	手	術	馬	砲	砲	砲	砲	砲	砲	砲	砲	砲	砲		
	200	200																													
	400	400																													
	600	600																													
	800	800																													
	1000	1000																													
	1200	1200																													
	1400	1400																													
	1600	1600																													
	1800	1800																													
	2000	2000																													
	2200	2200																													
	2400	2400																													
	2600	2600																													
	2800	2800																													
	3000	3000																													
	3200	3200																													
	3400	3400																													
	3600	3600																													
	3800	3800																													
	4000	4000																													
	4200	4200																													
	4400	4400																													
	4600	4600																													
	4800	4800																													
	5000	5000																													
	5200	5200																													
	5400	5400																													
	5600	5600																													
	5800	5800																													
	6000	6000																													
	6200	6200																													
	6400	6400																													
	6600	6600																													
	6800	6800																													
	7000	7000																													
	7200	7200																													
	7400	7400																													
	7600	7600																													
	7800	7800																													
	8000	8000																													
	8200	8200																													
	8400	8400																													
	8600	8600																													
	8800	8800																													
	9000	9000																													
	9200	9200																													
	9400	9400																													
	9600	9600																													
	9800	9800																													
	10000	10000																													

要摘

陸軍軍官候補生第一隊工兵科候補生學科教育進度預定表

Table with columns for dates (e.g., 一月, 二月, 三月) and progress indicators (e.g., 進度, 數次).

Table with columns for subjects like 工兵 (Engineering), 築壘 (Fortification), 操典 (Manuals), and 操典 (Manuals).

Table with columns for subjects like 交通 (Communication), 深橋 (Deep Bridges), 築壘 (Fortification), and 築壘 (Fortification).

Table with columns for subjects like 射擊 (Shooting), 野勤 (Field Work), 勤務 (Duties), and 勤務 (Duties).

Table with columns for subjects like 團編 (Unit Organization), 武階 (Military Rank), 武階 (Military Rank), and 武階 (Military Rank).

Table with columns for subjects like 禮節 (Etiquette), 陸軍 (Army), 陸軍 (Army), and 陸軍 (Army).

Table with columns for subjects like 起類 (Categories), 類及 (Categories and), 類及 (Categories and), and 類及 (Categories and).

Table with columns for subjects like 服制 (Uniform Regulations), 服制 (Uniform Regulations), 服制 (Uniform Regulations), and 服制 (Uniform Regulations).

Table with columns for subjects like 職章 (Insignia), 職章 (Insignia), 職章 (Insignia), and 職章 (Insignia).

Table with columns for subjects like 禮節 (Etiquette), 禮節 (Etiquette), 禮節 (Etiquette), and 禮節 (Etiquette).

Table with columns for subjects like 起類 (Categories), 起類 (Categories), 起類 (Categories), and 起類 (Categories).

Table with columns for subjects like 禮節 (Etiquette), 禮節 (Etiquette), 禮節 (Etiquette), and 禮節 (Etiquette).

Table with columns for subjects like 起類 (Categories), 起類 (Categories), 起類 (Categories), and 起類 (Categories).

Table with columns for subjects like 禮節 (Etiquette), 禮節 (Etiquette), 禮節 (Etiquette), and 禮節 (Etiquette).

Table with columns for subjects like 起類 (Categories), 起類 (Categories), 起類 (Categories), and 起類 (Categories).

Table with columns for subjects like 禮節 (Etiquette), 禮節 (Etiquette), 禮節 (Etiquette), and 禮節 (Etiquette).

Table with columns for subjects like 起類 (Categories), 起類 (Categories), 起類 (Categories), and 起類 (Categories).

Table with columns for subjects like 禮節 (Etiquette), 禮節 (Etiquette), 禮節 (Etiquette), and 禮節 (Etiquette).

摘要 (Summary)

海軍詳則 (Navy Detailed Regulations)

陸軍中則 (Army Middle Regulations)

由西教授 (Taught from West)

考備	語兵	學圖測	戰時及 出師 準備 心得	話講生衛	話講神精	衛成及 風紀 兵務 概要	陸軍 刑法 及懲 罰令	救急 法之 概要	紅字 條約 大意	軍務 條例 摘要	陸軍 禮節 摘要	武官 之階 級及 制服	各兵 種之 識別 及性 能	團隊 編制 概要	野勤 務要	射擊 教範 摘要
十二	所教 兵語				神聖 人語					力及 之動	禮室 外敬		之軍 兵部			
十二					同務 一致					動基 本	禮室 外敬		之軍 兵部			
十二					名忍 答耐	之務 要領				其運 動之	則使 使從	部禮 節				
十二				預病 防之	軍紀 風					術刺 鎗						
十二		測量 圖		一種 病之	友對 之得	任動 作之										
十二				雜同 伴	除軍 得自						隨禮 儀節					
十二		測量 圖		名軍 德	名軍 德						大同 上					
十二	之兵 語			國健 軍強	國健 軍強						軍迎 送					
十二		測圖		畧史 聖武	畧史 聖武											
十二	同上	測圖		摘模 軍中	摘模 軍中											
十	兵語 同上			摘條 陸戰	摘條 陸戰											
十	同上			同上	同上											
	5	4	3	3	12	3	4	6	2	4	3	4	2	6	5	4
				由軍 施行				由西 教授			則服 隊中			海軍 材料		

一本表中之進度科目應有軍事時休時指定
 二本表自第十七日起每週溫習物理化學代數幾何三角二面
 三本表自第十七日起每週溫習物理化學代數幾何三角二面
 四本表中之進度科目應有軍事時休時指定

陸軍軍官學校候補生第一隊騎重兵術科教育進度預定表

科目	射擊		演習		野外		鞍馬		排教		總教		口		佩		日期
	圖則	動格	動格	軍行	動格	動格	動格	動格	動格	動格	動格	動格	動格	動格	動格	動格	
禮節	1.00																1
上全	1.00																2
散部	1.00																3
散部	1.00																4
上全	1.00																5
散部	1.00																6
散部	1.00																7
散部	1.00																8
散部	1.00																9
散部	1.00																10
散部	1.00																11
散部	1.00																12
散部	1.00																13
散部	1.00																14
散部	1.00																15
散部	1.00																16
散部	1.00																17
散部	1.00																18
散部	1.00																19
散部	1.00																20
散部	1.00																21
散部	1.00																22
散部	1.00																23
散部	1.00																24
散部	1.00																25
散部	1.00																26
散部	1.00																27
散部	1.00																28
散部	1.00																29
散部	1.00																30
散部	1.00																31
散部	1.00																32
散部	1.00																33
散部	1.00																34
散部	1.00																35
散部	1.00																36
散部	1.00																37
散部	1.00																38
散部	1.00																39
散部	1.00																40
散部	1.00																41
散部	1.00																42
散部	1.00																43
散部	1.00																44
散部	1.00																45
散部	1.00																46
散部	1.00																47
散部	1.00																48
散部	1.00																49
散部	1.00																50
散部	1.00																51
散部	1.00																52
散部	1.00																53
散部	1.00																54
散部	1.00																55
散部	1.00																56
散部	1.00																57
散部	1.00																58
散部	1.00																59
散部	1.00																60
散部	1.00																61
散部	1.00																62
散部	1.00																63
散部	1.00																64
散部	1.00																65
散部	1.00																66
散部	1.00																67
散部	1.00																68
散部	1.00																69
散部	1.00																70
散部	1.00																71
散部	1.00																72
散部	1.00																73
散部	1.00																74
散部	1.00																75
散部	1.00																76
散部	1.00																77
散部	1.00																78
散部	1.00																79
散部	1.00																80
散部	1.00																81
散部	1.00																82
散部	1.00																83
散部	1.00																84
散部	1.00																85
散部	1.00																86
散部	1.00																87
散部	1.00																88
散部	1.00																89
散部	1.00																90
散部	1.00																91
散部	1.00																92
散部	1.00																93
散部	1.00																94
散部	1.00																95
散部	1.00																96
散部	1.00																97
散部	1.00																98
散部	1.00																99
散部	1.00																100

要摘

考 備	及車探 馬溜飲	夜間 射擊	基本 射擊	預射擊	敬禮 行進	習		外		野	教 軌 練 馬	教 馱 練 騾	術 馬	練 教 排		總 檢		行 進		
						圖 則	動 格	務 勤 備 出	軍 行					務 勤 兵	兵 散 個 各	離 距 量 測	兵 散		子 裝 動 擊	
一由前週至第三週 二由前週至第三週 三由前週至第三週					行進 2.00															
					上全															
					安五徒 芬射手 1.00	敬部徒 禮採手 1.00														
		鏡 聽			1.00	敬部徒 禮採手 1.00														
		鏡 聽			1.00	敬部徒 禮採手 1.00														
		馬溜馬飲			預靶場 2.00															
		上 全			預射三 射手守 2.00															
		馬 刷			上 全															
		馬 喂			上 全															
		車馱拭擦			上 全															
		車馱拭擦			上 全															
					2.00	2.00	4.00	6.00	2.00	2.00	4.00	4.00	8.00	2.00	2.00	1.30	4.00	4.30	3	

陸軍軍官候補生第一隊編兵科候補生學科教育進度預定表 自民國六年一月八日施行

科目	進度	日期	備註
精神講話	一	由一月八日至十三日	
精神講話	二	由一月十四日至二十日	
精神講話	三	由一月廿一至廿七日	
精神講話	四	由一月廿八日至三月四日	
精神講話	五	由三月五日至十日	
精神講話	六	由三月十一日至十七日	
精神講話	七	由三月十八日至廿四日	
精神講話	八	由三月廿五日至四月一日	
精神講話	九	由四月二日至十日	
精神講話	十	由四月十一日至十七日	
精神講話	十一	由四月十八日至廿四日	
精神講話	十二	由四月廿五日至五月十一日	
精神講話	十三	由五月十二日至廿八日	
精神講話	十四	由五月廿九日至六月五日	
精神講話	十五	由六月六日至十二日	
精神講話	十六	由六月十三日至十九日	
精神講話	十七	由六月廿日至廿六日	
精神講話	十八	由六月廿七日至七月三日	
精神講話	十九	由七月四日至十日	
精神講話	二十	由七月十一日至十七日	
精神講話	二十一	由七月十八日至廿四日	
精神講話	二十二	由七月廿五日至八月十一日	
精神講話	二十三	由八月十二日至十八日	
精神講話	二十四	由八月十九日至廿五日	
精神講話	二十五	由八月廿六日至九月二日	
精神講話	二十六	由九月三日至九日	
精神講話	二十七	由九月十日至十六日	
精神講話	二十八	由九月十七日至廿三日	
精神講話	二十九	由九月廿四日至十月一日	
精神講話	三十	由十月二日至八日	
精神講話	三十一	由十月九日至十五日	
精神講話	三十二	由十月十六日至廿二日	
精神講話	三十三	由十月廿三日至廿九日	
精神講話	三十四	由十月三十日至十一月六日	
精神講話	三十五	由十一月七日至十三日	
精神講話	三十六	由十一月十四日至廿日	
精神講話	三十七	由十一月廿一至廿七日	
精神講話	三十八	由十一月廿八日至十二月四日	
精神講話	三十九	由十二月五日至十一日	
精神講話	四十	由十二月十二日至十八日	
精神講話	四十一	由十二月十九日至廿五日	
精神講話	四十二	由十二月廿六日至一月二日	
精神講話	四十三	由一月三日至九日	
精神講話	四十四	由一月十日至十六日	
精神講話	四十五	由一月十七日至廿三日	
精神講話	四十六	由一月廿四日至三十日	
精神講話	四十七	由二月一日至七日	
精神講話	四十八	由二月八日至十四日	
精神講話	四十九	由二月十五日至廿一日	
精神講話	五十	由二月廿二日至廿八日	
精神講話	五十一	由二月廿九日至三月五日	
精神講話	五十二	由三月六日至十二日	
精神講話	五十三	由三月十三日至十九日	
精神講話	五十四	由三月廿日至廿六日	
精神講話	五十五	由三月廿七日至四月三日	
精神講話	五十六	由四月四日至十日	
精神講話	五十七	由四月十一日至十七日	
精神講話	五十八	由四月十八日至廿四日	
精神講話	五十九	由四月廿五日至五月十一日	
精神講話	六十	由五月十二日至十八日	
精神講話	六十一	由五月十九日至廿五日	
精神講話	六十二	由五月廿六日至六月二日	
精神講話	六十三	由六月三日至九日	
精神講話	六十四	由六月十日至十六日	
精神講話	六十五	由六月十七日至廿三日	
精神講話	六十六	由六月廿四日至三十日	
精神講話	六十七	由七月一日至七日	
精神講話	六十八	由七月八日至十四日	
精神講話	六十九	由七月十五日至廿一日	
精神講話	七十	由七月廿二日至廿八日	
精神講話	七十一	由七月廿九日至八月五日	
精神講話	七十二	由八月六日至十二日	
精神講話	七十三	由八月十三日至十九日	
精神講話	七十四	由八月廿日至廿六日	
精神講話	七十五	由八月廿七日至九月三日	
精神講話	七十六	由九月四日至十日	
精神講話	七十七	由九月十一日至十七日	
精神講話	七十八	由九月十八日至廿四日	
精神講話	七十九	由九月廿五日至十月十一日	
精神講話	八十	由十月十二日至十八日	
精神講話	八十一	由十月十九日至廿五日	
精神講話	八十二	由十月廿六日至十一月二日	
精神講話	八十三	由十一月三日至九日	
精神講話	八十四	由十一月十日至十六日	
精神講話	八十五	由十一月十七日至廿三日	
精神講話	八十六	由十一月廿四日至三十日	
精神講話	八十七	由十二月一日至七日	
精神講話	八十八	由十二月八日至十四日	
精神講話	八十九	由十二月十五日至廿一日	
精神講話	九十	由十二月廿二日至廿八日	
精神講話	九十一	由十二月廿九日至一月五日	
精神講話	九十二	由一月六日至十二日	
精神講話	九十三	由一月十三日至十九日	
精神講話	九十四	由一月廿日至廿六日	
精神講話	九十五	由一月廿七日至二月三日	
精神講話	九十六	由二月四日至十日	
精神講話	九十七	由二月十一日至十七日	
精神講話	九十八	由二月十八日至廿四日	
精神講話	九十九	由二月廿五日至三月十一日	
精神講話	一百	由三月十二日至十八日	
精神講話	一百零一	由三月十九日至廿五日	
精神講話	一百零二	由三月廿六日至四月二日	
精神講話	一百零三	由四月三日至九日	
精神講話	一百零四	由四月十日至十六日	
精神講話	一百零五	由四月十七日至廿三日	
精神講話	一百零六	由四月廿四日至三十日	
精神講話	一百零七	由五月一日至七日	
精神講話	一百零八	由五月八日至十四日	
精神講話	一百零九	由五月十五日至廿一日	
精神講話	一百一十	由五月廿二日至廿八日	
精神講話	一百一十一	由五月廿九日至六月五日	
精神講話	一百一十二	由六月六日至十二日	
精神講話	一百一十三	由六月十三日至十九日	
精神講話	一百一十四	由六月廿日至廿六日	
精神講話	一百一十五	由六月廿七日至七月三日	
精神講話	一百一十六	由七月四日至十日	
精神講話	一百一十七	由七月十一日至十七日	
精神講話	一百一十八	由七月十八日至廿四日	
精神講話	一百一十九	由七月廿五日至八月十一日	
精神講話	一百二十	由八月十二日至十八日	
精神講話	一百二十一	由八月十九日至廿五日	
精神講話	一百二十二	由八月廿六日至九月二日	
精神講話	一百二十三	由九月三日至九日	
精神講話	一百二十四	由九月十日至十六日	
精神講話	一百二十五	由九月十七日至廿三日	
精神講話	一百二十六	由九月廿四日至三十日	
精神講話	一百二十七	由十月一日至七日	
精神講話	一百二十八	由十月八日至十四日	
精神講話	一百二十九	由十月十五日至廿一日	
精神講話	一百三十	由十月廿二日至廿八日	
精神講話	一百三十一	由十月廿九日至十一月五日	
精神講話	一百三十二	由十一月六日至十二日	
精神講話	一百三十三	由十一月十三日至十九日	
精神講話	一百三十四	由十一月廿日至廿六日	
精神講話	一百三十五	由十一月廿七日至十二月三日	
精神講話	一百三十六	由十二月四日至十日	
精神講話	一百三十七	由十二月十一日至十七日	
精神講話	一百三十八	由十二月十八日至廿四日	
精神講話	一百三十九	由十二月廿五日至一月十一日	
精神講話	一百四十	由一月十二日至十八日	
精神講話	一百四十一	由一月十九日至廿五日	
精神講話	一百四十二	由一月廿六日至二月二日	
精神講話	一百四十三	由二月三日至九日	
精神講話	一百四十四	由二月十日至十六日	
精神講話	一百四十五	由二月十七日至廿三日	
精神講話	一百四十六	由二月廿四日至三十日	
精神講話	一百四十七	由三月一日至七日	
精神講話	一百四十八	由三月八日至十四日	
精神講話	一百四十九	由三月十五日至廿一日	
精神講話	一百五十	由三月廿二日至廿八日	
精神講話	一百五十一	由三月廿九日至四月五日	
精神講話	一百五十二	由四月六日至十二日	
精神講話	一百五十三	由四月十三日至十九日	
精神講話	一百五十四	由四月廿日至廿六日	
精神講話	一百五十五	由四月廿七日至五月三日	
精神講話	一百五十六	由五月四日至十日	
精神講話	一百五十七	由五月十一日至十七日	
精神講話	一百五十八	由五月十八日至廿四日	
精神講話	一百五十九	由五月廿五日至六月十一日	
精神講話	一百六十	由六月十二日至十八日	
精神講話	一百六十一	由六月十九日至廿五日	
精神講話	一百六十二	由六月廿六日至七月二日	
精神講話	一百六十三	由七月三日至九日	
精神講話	一百六十四	由七月十日至十六日	
精神講話	一百六十五	由七月十七日至廿三日	
精神講話	一百六十六	由七月廿四日至三十日	
精神講話	一百六十七	由八月一日至七日	
精神講話	一百六十八	由八月八日至十四日	
精神講話	一百六十九	由八月十五日至廿一日	
精神講話	一百七十	由八月廿二日至廿八日	
精神講話	一百七十一	由八月廿九日至九月五日	
精神講話	一百七十二	由九月六日至十二日	
精神講話	一百七十三	由九月十三日至十九日	
精神講話	一百七十四	由九月廿日至廿六日	
精神講話	一百七十五	由九月廿七日至十月三日	
精神講話	一百七十六	由十月四日至十日	
精神講話	一百七十七	由十月十一日至十七日	
精神講話	一百七十八	由十月十八日至廿四日	
精神講話	一百七十九	由十月廿五日至十一月十一日	
精神講話	一百八十	由十一月十二日至十八日	
精神講話	一百八十一	由十一月十九日至廿五日	
精神講話	一百八十二	由十一月廿六日至十二月二日	
精神講話	一百八十三	由十二月三日至九日	
精神講話	一百八十四	由十二月十日至十六日	
精神講話	一百八十五	由十二月十七日至廿三日	
精神講話	一百八十六	由十二月廿四日至三十日	
精神講話	一百八十七	由一月一日至七日	
精神講話	一百八十八	由一月八日至十四日	
精神講話	一百八十九	由一月十五日至廿一日	
精神講話	一百九十	由一月廿二日至廿八日	
精神講話	一百九十一	由一月廿九日至二月五日	
精神講話	一百九十二	由二月六日至十二日	
精神講話	一百九十三	由二月十三日至十九日	
精神講話	一百九十四	由二月廿日至廿六日	
精神講話	一百九十五	由二月廿七日至三月三日	
精神講話	一百九十六	由三月四日至十日	
精神講話	一百九十七	由三月十一日至十七日	
精神講話	一百九十八	由三月十八日至廿四日	
精神講話	一百九十九	由三月廿五日至四月十一日	
精神講話	二百	由四月十二日至十八日	
精神講話	二百零一	由四月十九日至廿五日	
精神講話	二百零二	由四月廿六日至五月二日	
精神講話	二百零三	由五月三日至九日	
精神講話	二百零四	由五月十日至十六日	
精神講話	二百零五	由五月十七日至廿三日	
精神講話	二百零六	由五月廿四日至三十日	
精神講話	二百零七	由六月一日至七日	
精神講話	二百零八	由六月八日至十四日	
精神講話	二百零九	由六月十五日至廿一日	
精神講話	二百一十	由六月廿二日至廿八日	
精神講話	二百一十一	由六月廿九日至七月五日	
精神講話	二百一十二	由七月六日至十二日	
精神講話	二百一十三	由七月十三日至十九日	
精神講話	二百一十四	由七月廿日至廿六日	
精神講話	二百一十五	由七月廿七日至八月三日	
精神講話	二百一十六	由八月四日至十日	
精神講話	二百一十七	由八月十一日至十七日	
精神講話	二百一十八	由八月十八日至廿四日	
精神講話	二百一十九	由八月廿五日至九月十一日	
精神講話	二百二十	由九月十二日至十八日	
精神講話	二百二十一	由九月十九日至廿五日	
精神講話	二百二十二	由九月廿六日至十月二日	
精神講話	二百二十三	由十月三日至九日	
精神講話	二百二十四	由十月十日至十六日	
精神講話	二百二十五	由十月十七日至廿三日	
精神講話	二百二十六	由十月廿四日至三十日	
精神講話	二百二十七	由十一月一日至七日	
精神講話	二百二十八	由十一月八日至十四日	
精神講話	二百二十九	由十一月十五日至廿一日	
精神講話	二百三十	由十一月廿二日至廿八日	
精神講話	二百三十一	由十一月廿九日至十二月五日	
精神講話	二百三十二	由十二月六日至十二日	
精神講話	二百三十三	由十二月十三日至十九日	
精神講話	二百三十四	由十二月廿日至廿六日	
精神講話	二百三十五	由十二月廿七日至一月三日	
精神講話	二百三十六	由一月四日至十日	
精神講話	二百三十七	由一月十一日至十七日	
精神講話	二百三十八	由一月十八日至廿四日	
精神講話	二百三十九	由一月廿五日至二月十一日	
精神講話	二百四十	由二月十二日至十八日	
精神講話	二百四十一	由二月十九日至廿五日	
精神講話	二百四十二	由二月廿六日至三月二日	
精神講話	二百四十三	由三月三日至九日	
精神講話	二百四十四	由三月十日至十六日	
精神講話	二百四十五	由三月十七日至廿三日	
精神講話	二百四十六	由三月廿四日至三十日	
精神講話	二百四十七	由四月一日至七日	
精神講話	二百四十八	由四月八日至十四日	
精神講話	二百四十九	由四月十五日至廿一日	
精神講話	二百五十	由四月廿二日至廿八日	
精神講話	二百五十一	由四月廿九日至五月五日	
精神講話	二百五十二	由五月六日至十二日	
精神講話	二百五十三	由五月十三日至十九日	
精神講話	二百五十四	由五月廿日至廿六日	
精神講話	二百五十五	由五月廿七日至六月三日	
精神講話	二百五十六	由六月四日至十日	
精神講話	二百五十七	由六月十一日至十七日	
精神講話	二百五十八	由六月十八日至廿四日	
精神講話	二百五十九	由六月廿五日至七月十一日	
精神講話	二百六十	由七月十二日至十八日	
精神講話	二百六十一	由七月十九日至廿五日	
精神講話	二百六十二	由七月廿六日至八月二日	
精神講話	二百六十三	由八月三日至九日	
精神講話	二百六十四	由八月十日至十六日	
精神講話	二百六十五	由八月十七日至廿三日	
精神講話	二百六十六	由八月廿四日至三十日	
精神講話	二百六十七	由八月三十一日至九月六日	
精神講話	二百六十八	由九月七日至十三日	
精神講話	二百六十九	由九月十四日至廿日	
精神講話	二百七十	由九月廿一至廿七日	
精神講話	二百七十一	由九月廿八日至十月四日	
精神講話	二百七十二	由十月五日至十一日	
精神講話	二百七十三	由十月十二日至十八日	
精神講話	二百七十四	由十月十九日至廿五日	
精神講話	二百七十五	由十月廿六日至十一月二日	
精神講話	二百七十六	由十一月三日至九日	
精神講話	二百七十七	由十一月十日至十六日	
精神講話	二百七十八	由十一月十七日至廿三日	
精神講話	二百七十九	由十一月廿四日至三十日	
精神講話	二百八十	由十二月一日至七日	
精神講話	二百八十一	由十二月八日至十四日	
精神講話	二百八十二	由十二月十五日至廿一日	
精神講話	二百八十三	由十二月廿二日至廿八日	
精神講話	二百八十四	由十二月廿九日至一月五日	
精神講話	二百八十五	由一月六日至十二日	
精神講話	二百八十六	由一月十三日至十九日	
精神講話	二百八十七	由一月廿日至廿六日	
精神講話	二百八十八	由一月廿七日至二月三日	
精神講話	二百八十九	由二月四日至十日	
精神講話	二百九十	由二月十一日至十七日	
精神講話	二百九十一	由二月十八日至廿四日	
精神講話	二百九十二	由二月廿五日至三月十一日	
精神講話	二百九十三	由三月十二日至十八日	
精神講話	二百九十四	由三月十九日至廿五日	
精神講話	二百九十五	由三月廿六日至四月二日	
精神講話	二百九十六	由四月三日至九日	
精神講話	二百九十七	由四月十日至十六日	
精神講話	二百九十八	由四月十七日至廿三日	
精神講話	二百九十九	由四月廿四日至三十日	
精神講話	三百	由五月一日至	

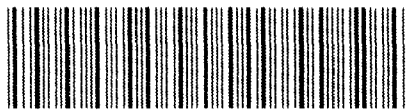
考備

本表中之進度科目過有更時依臨時指定之
三本表規定每週有未至十二次者所給時溫習物理化學代數幾何三角等
四本表中所定科目如無與或成水或氣分能則因教授者口授或書寫而使候補生筆記

考備	語兵	學圖測	得備出裝戰	話講生衛	話講神精	概兵風衛	罰及刑陸	概法救	大約字紅	要教範體	摘條內軍	摘禮陸	起類之動	服級之武	能及識兵各	概編團	教精相	摘教射騎
十	語訓練閱				神軍人精										三及各部			
十二					一協任軍										三及各部			
十					名譽耐	領之一版衛									制官值之服諸			
十二					之預病	之衛生心									制級管之服			
十二		要則繪簡		種病傳染	得友對得官對	任勤步兵									及佩級		之師戰	
十		查測量		雜件	際軍得自之方	際軍得自之方									大制及階軍		之師戰	
十二		圖測算目			名譽耐	務衛兵風									制級管之服			
十二	語用門閱	圖測算目			因健軍德										用等紀章			
十二					畧史聖武										一賞格			
十二					摘旗軍中										之恩賞			
十	兵所整軍閱				摘條陸													
十					上同													
	5	4	3	3	12	3	8	6	2	4	3	7	4	4	2	6	4	2
					施行													

檢完日詳
之畢時備

上海图书馆藏书



A541 212 0015 7825B

中華民國六年八月出版



著作者 日本陸軍步兵大尉矢賀正之

編譯者 前浙江督練公所教練處

重印者 保定陸軍軍官學校同學

代印者 保定東街路北墨花齋石印局

卷之四

一

二

三